

神戸電鉄栗生線 地域公共交通総合連携計画  
(平成 25 年度～平成 28 年度)

平成 2 5 年 3 月

神戸市・三木市・小野市

# 目次

1. はじめに	1
1-1 計画策定の目的	1
1-2 計画対象区域	1
1-3 計画対象期間	2
1-4 計画の構成	2
2. 神戸電鉄粟生線および沿線地域の現状	3
2-1 神戸電鉄粟生線沿線地域の概況	3
2-2 神戸電鉄粟生線の現状	8
3. 前・連携計画における取り組み効果の検証	11
3-1 取り組み効果の検証	11
3-2 課題点の整理	15
4. 神戸電鉄粟生線の存続に向けた支援の概要	18
5. 神戸電鉄粟生線活性化の方向性	19
5-1 基本方針	19
5-2 計画目標	20
5-3 取り組むべき事業	23
5-4 事業の実行主体とスケジュール	46
5-5 次期計画目標達成の必要性について	48
5-6 推進体制とめざす姿	49
(参考資料)	
前・連携計画における取り組み実績について	50

# 1. はじめに

## 1-1 計画策定の目的

神戸電鉄栗生線地域公共交通総合連携計画（平成 25 年度～平成 28 年度）は、神戸電鉄栗生線が抱える課題の解決に向けて、関係者（神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄株式会社、住民、国、兵庫県等）が一体となって、それぞれの立場で役割を担い、沿線地域の実状・実態に即した路線維持・活性化方策を講じるための計画書である。

前・連携計画（平成 22 年度～平成 24 年度）の取り組み効果の検証を踏まえ、本計画書において示す方針、目標、事業内容を関係者が相互に理解し共通認識を持ち、関係者間の協力と連携により総合的・一体的に事業を実施していくことで、栗生線および沿線地域の活性化を目指していく。

※「神戸電鉄栗生線活性化協議会」は、神戸電鉄栗生線の利用促進などを検討するため、神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線利用者、学識者、国土交通省近畿運輸局、兵庫県で構成される。

## 1-2 計画対象区域

本計画における対象区域は、神戸市、三木市、小野市の栗生線沿線の 3 市とする。



図 1-1 計画対象区域図

### 1-3 計画対象期間

本計画の対象期間は、平成25年度から平成28年度までの4か年とする。  
(粟生線の安定的な運行継続に向けた行政の支援期間と整合)

### 1-4 計画の構成

本計画の構成を次に示す。

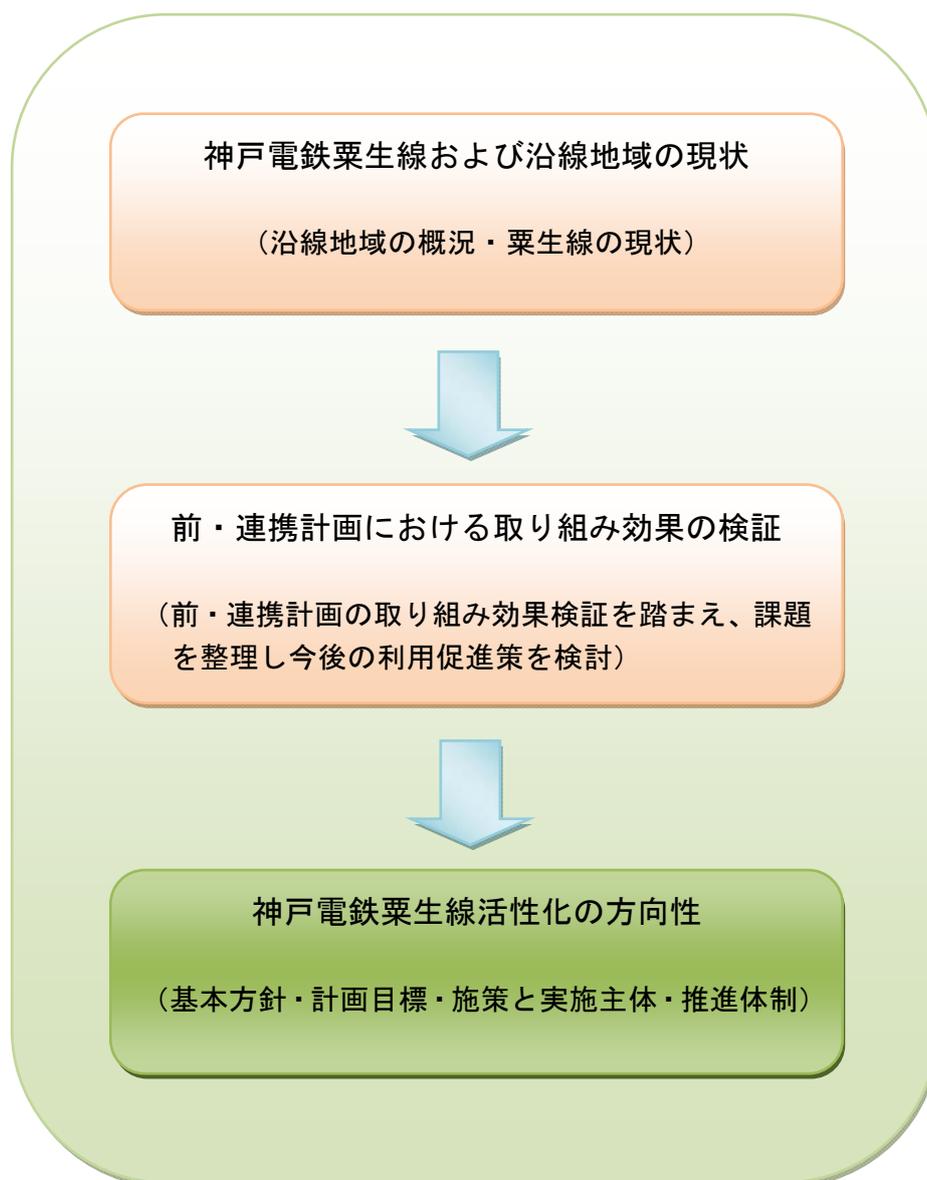


図 1-2 計画の構成

## 2. 神戸電鉄粟生線および沿線地域の現状

### 2-1 神戸電鉄粟生線沿線地域の概況

神戸電鉄粟生線は、兵庫県内の神戸市、三木市、小野市の3市にまたがる鈴蘭台駅～粟生駅間 29.2km の路線であり、神戸市内から北播磨地域への開発動脈として昭和11年から敷設が開始され、同年に鈴蘭台駅～広野ゴルフ場前駅間が営業開始したのを皮切りに、順次、路線を延長し、昭和27年より全線営業を開始している。

また、粟生駅では JR 西日本・加古川線と北条鉄道に接続し、加古川市内や丹波地域などを繋ぐネットワークを形成している。

昭和40年代後半から昭和50年代において、神戸市西区から三木市南東部でニュータウンが次々と開発され、それらの地域と神戸市中心部を結ぶ通勤・通学輸送が主体となり、本地域の中心的な公共交通機関としての役割を担っている。

しかしながら、沿線地域の土地利用は住居系が中心であることから少子高齢化の影響を直接的に受けるとともに、マイカーの普及や沿線道路網等の整備により、近年、車利用を前提とした開発が進められてきたことから、年間輸送人員は平成4年度の1,420万人をピークとしてその後減少（震災後の平成8年度を除く）が続いており、平成21年度にはピーク時の半分を下回る693万人にまで減少した。

前・連携計画において平成24年度の目標輸送人員を730万人に掲げ、平成22年度から粟生線活性化協議会を中心とした利用促進策を進めてきたが、平成23年度の輸送人員は682万人、平成24年度の輸送人員の見通しは672万人（4月～12月実績に基づく推定値）に留まっており、減少傾向は鈍化してきたものの目標との隔たりは大きくなっている。

#### （粟生線沿線人口の減少、高齢化の進展）

- 沿線地域の総人口は、概ね平成7年まで増加傾向にあったものの、平成12年から微減傾向にあり、今後はさらに人口の減少が始まる。

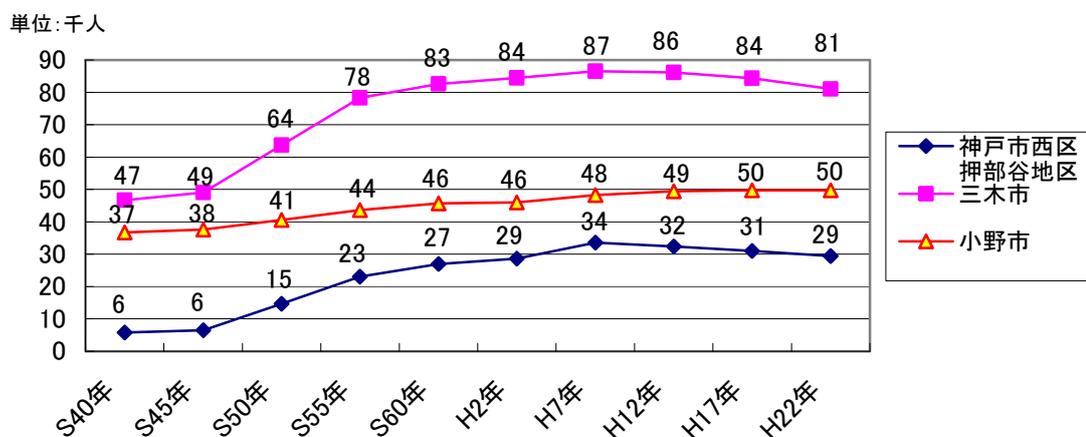


図 2-1 沿線人口の推移（参照：国勢調査）

※神戸市西区押部谷地区：秋葉台、押部谷町、北山台、桜が丘、高雄台、月が丘、富士見が丘、美穂が丘

三木市は旧吉川町の人口を含む

- ・神戸市西区押部谷地区では、15歳未満の年少人口が減少、65歳以上の人口が増加傾向にあり、少子高齢化が進展している。

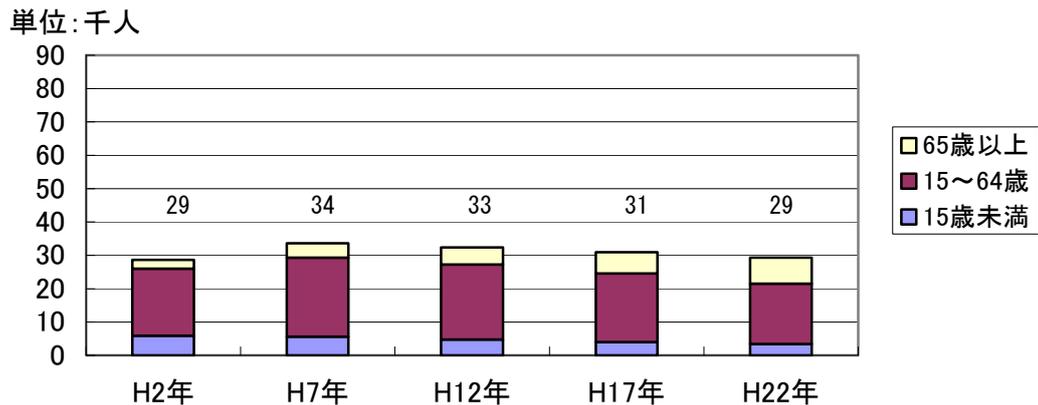


図 2-2 神戸市西区押部谷地区年齢層別人口 (参照: 国勢調査)

- ・三木市でも、15歳未満の年少人口が減少、65歳以上の人口が増加傾向にあり、少子高齢化が進展している。

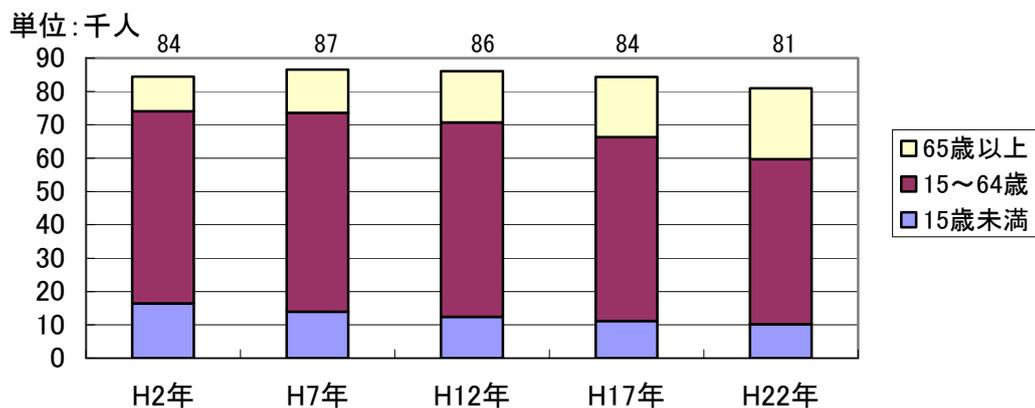


図 2-3 三木市年齢層別人口 (参照: 国勢調査)

- ・小野市では、人口は横ばいであるものの、人口構成としては神戸市西区押部谷地区、三木市と同様に、15歳未満の年少人口が減少、65歳以上の人口が増加傾向にあり、少子高齢化が進展している。

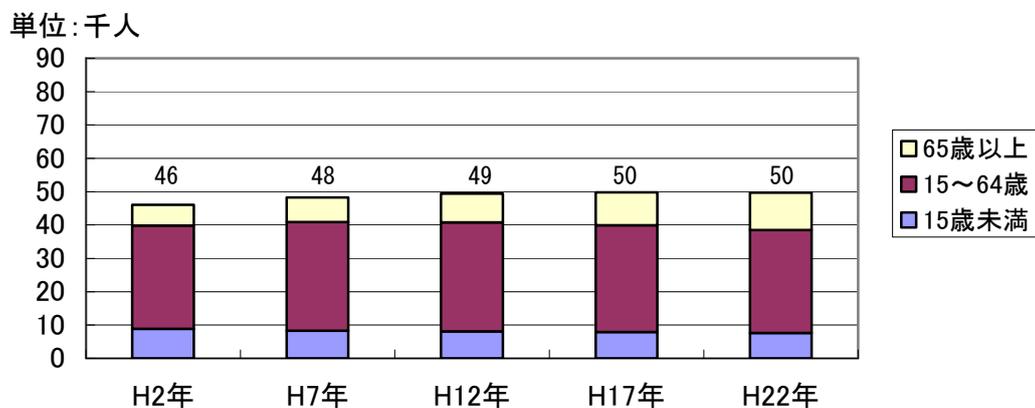


図 2-4 小野市年齢層別人口 (参照: 国勢調査)

(粟生線をとりまく交通実態)

- ・沿線地域内から出発する交通量の大半は地域内を目的地としている。

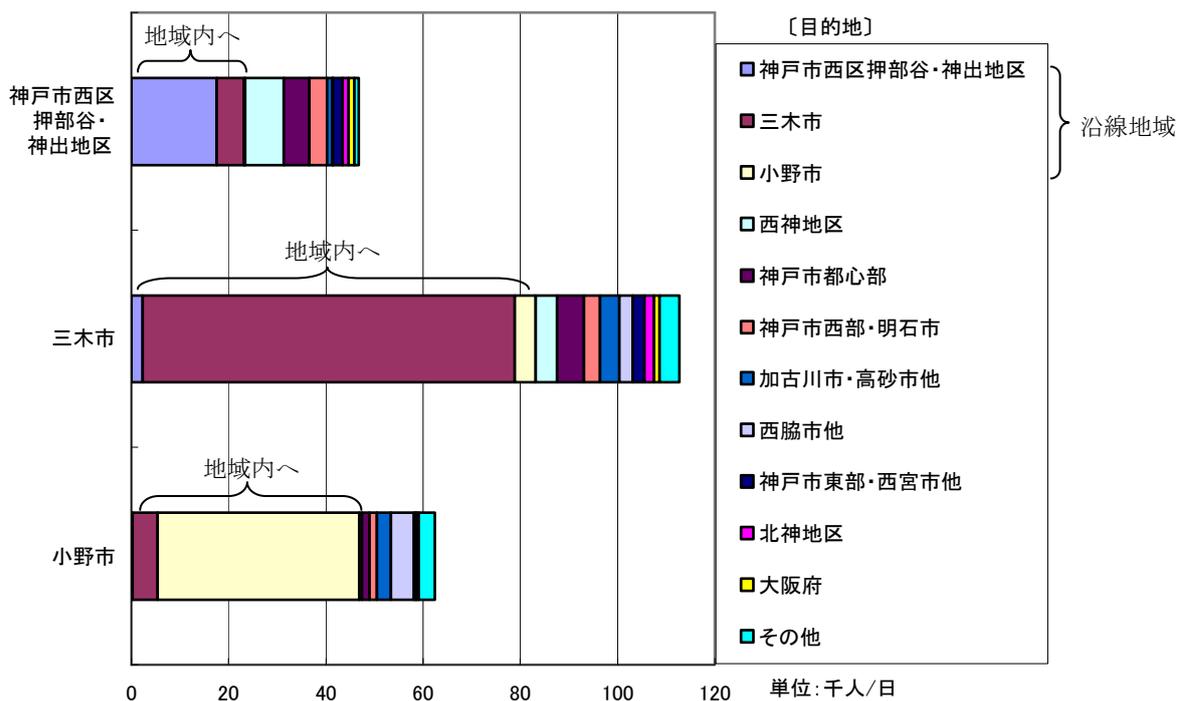


図 2-5 発生交通量と目的地 (参照: 京阪神都市圏パーソントリップ調査 (2000 年))

※神戸市西区で設定されたパーソントリップゾーンの関係から、沿線地域の対象となる区域が押部谷・神出地区となる。

- ・沿線地域内を目的地としている交通量の大半は地域内から出発している。

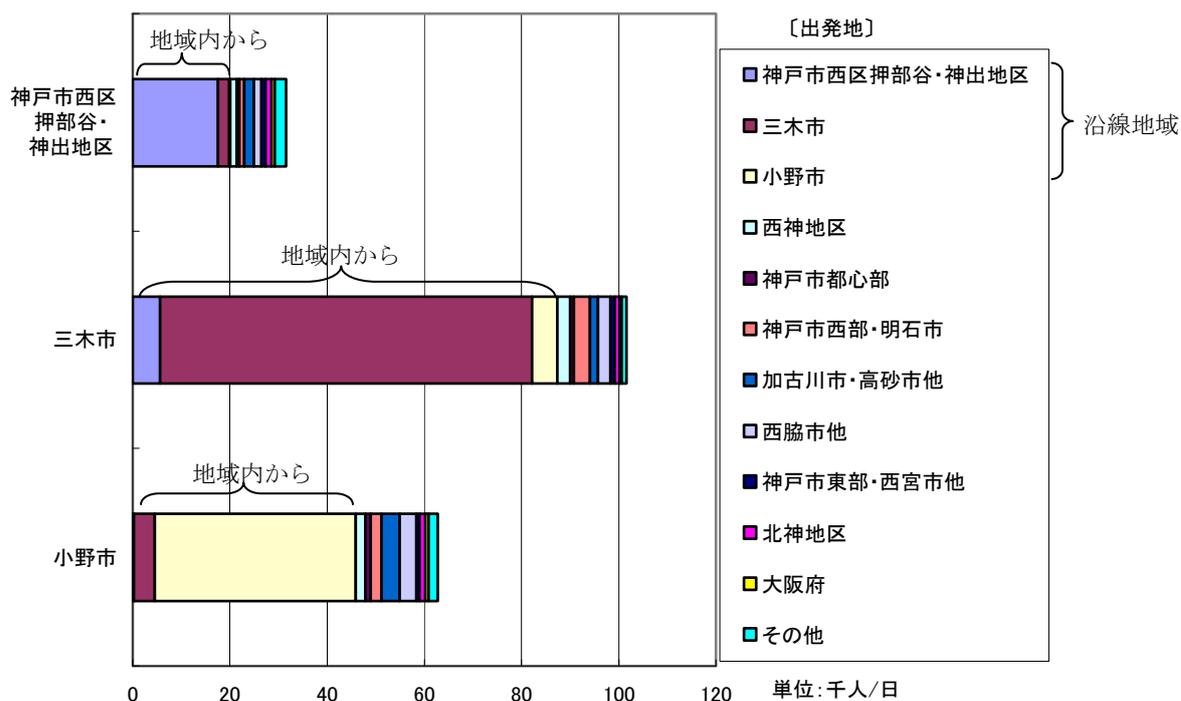


図 2-6 集中交通量と出発地 (参照: 京阪神都市圏パーソントリップ調査 (2000 年))

- ・沿線地域内で発生する交通手段では、鉄道利用を見ると神戸市西区（押部谷・神出地区）が18%、三木市は8%、小野市が4%という結果であり、自動車利用の割合が高い。

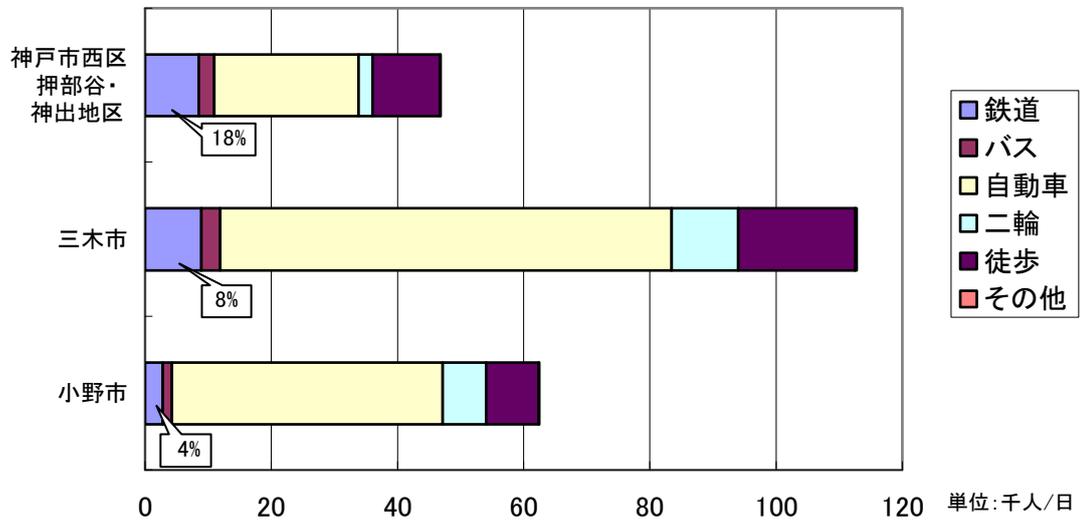


図 2-7 発生交通量の交通手段分担（参照：京阪神都市圏パーソントリップ調査（2000年））

- ・地域外から流入する交通量は、地域内で発生する交通量の約20%であり、地域外から流入する交通の代表交通手段は、自動車利用が86%となっており、発生交通量に比べ自動車への依存度が高い。

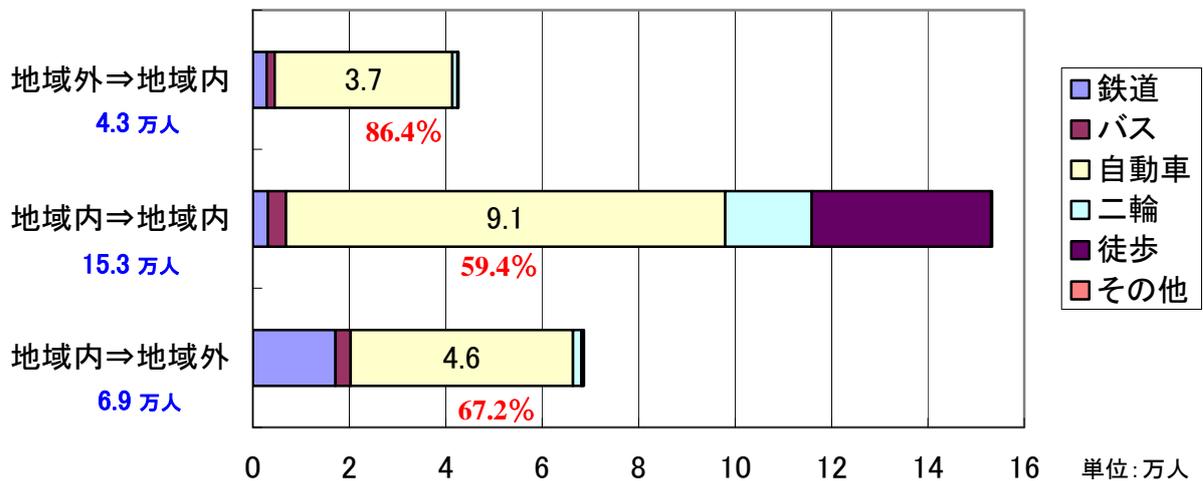


図 2-8 地域内交通量および地域内外交通量の比較  
（参照：京阪神都市圏パーソントリップ調査（2000年））

- 沿線地域内での自動車保有台数は、平成11年から平成20年度まで一律に増加してきたものの、直近の3年間は増加傾向も鈍化しており、特に小野市においては年2.0%で減少している。

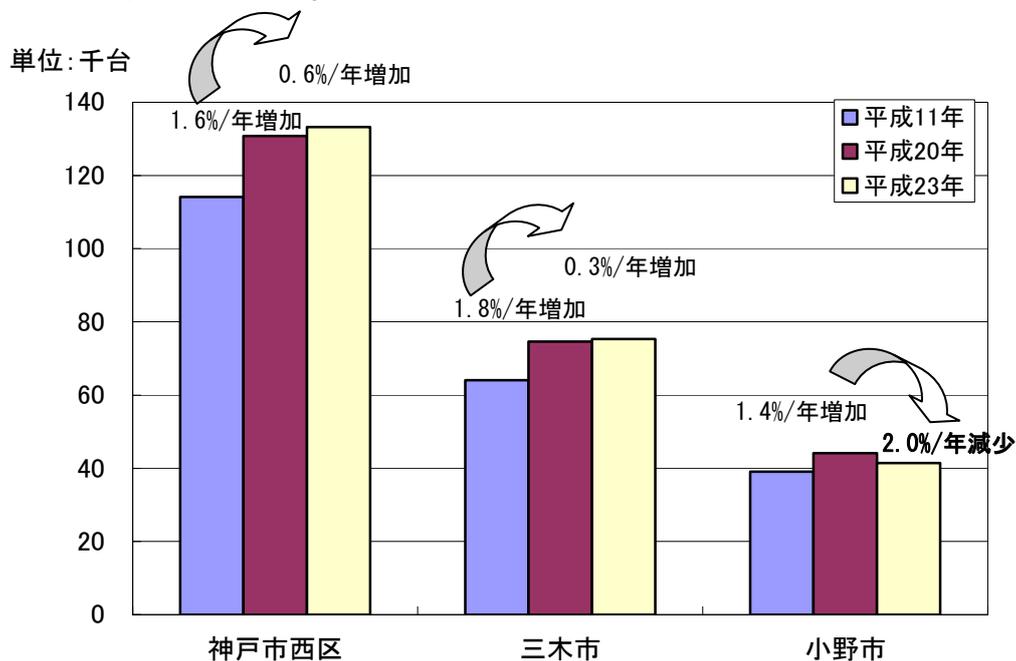


図 2-9 自動車保有台数の変化（出典：神戸市、三木市、小野市統計書）

※神戸市西区の台数は、神戸市統計書による西区全体の数値である。

## 2-2 神戸電鉄粟生線の現状

### (粟生線の輸送人員の減少)

- ・粟生線の輸送人員は平成4年度をピークに大きく減少しており、直近は減少傾向が鈍化してきたものの、平成21年度以降はピーク時の約半数にあたる700万人を下回っている。

単位：万人/年

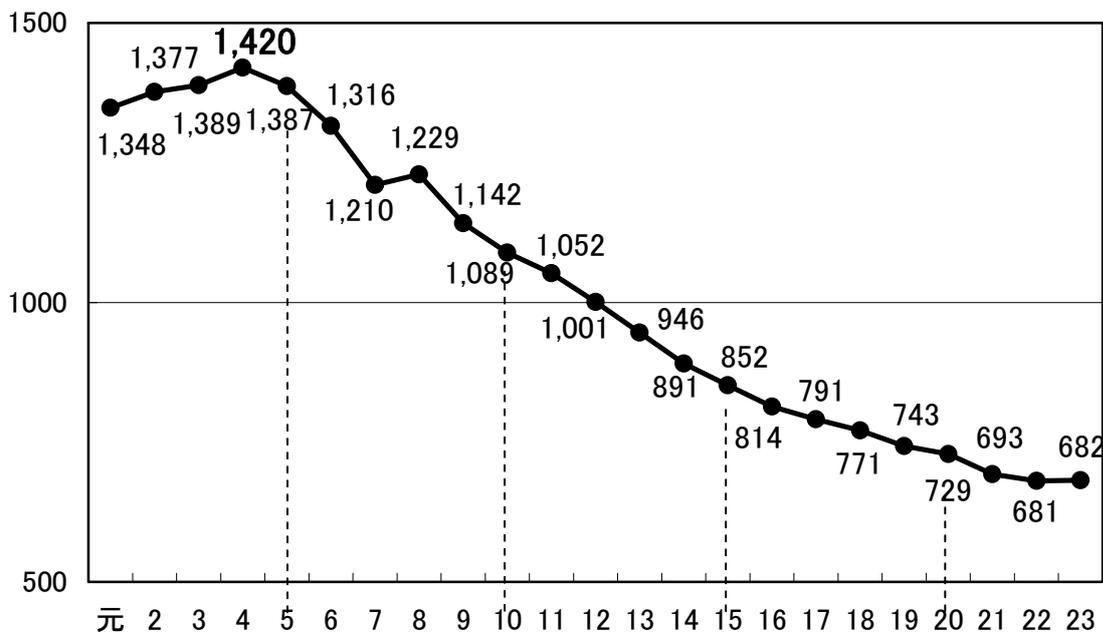


図 2-10 神戸電鉄粟生線の輸送人員の推移 (参照：神戸電鉄資料)

- ・券種別の輸送人員は、定期以外に比べて定期利用の輸送人員の減少が大きい。
- ・直近の3年間は一律に年2.1%の減少となり、減少の鈍化がみられるが、定期については平成23年9月に沿線高校の校舎耐震補強工事に伴う校舎移転による一時的な増加の影響を含んでおり、実質的な減少はさらに大きくなっている(平成23年度の年間利用者数に占める割合：2.0%程度)。

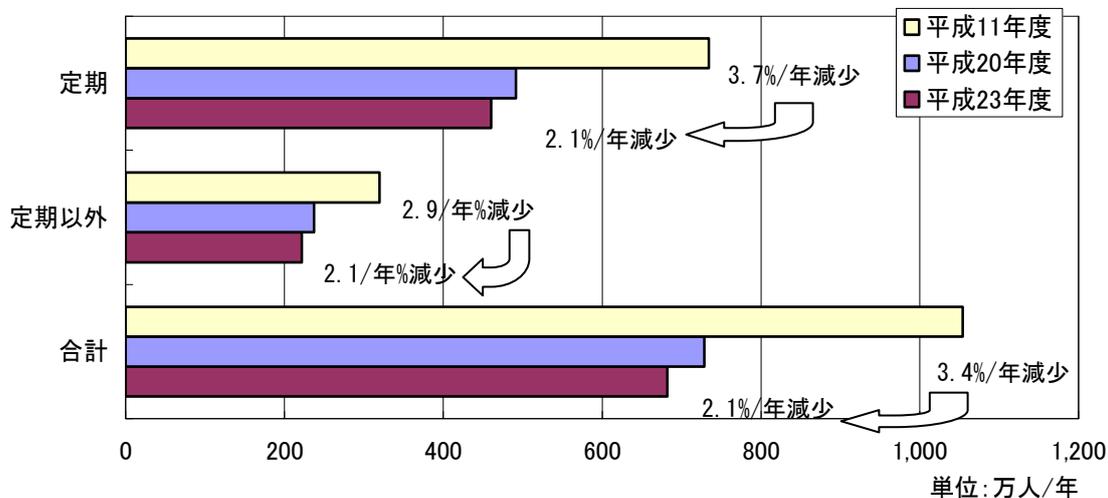


図 2-11 神戸電鉄粟生線の券種別利用状況の推移 (参照：神戸電鉄資料)

- ・乗降人員は平成11年度以降、木津駅を除く全ての駅で減少しており、特に平成23年度における木幡駅と志染駅は半数を下回る減少になっている。  
(木幡駅：57%減、志染駅：52%減)

単位：千人/日

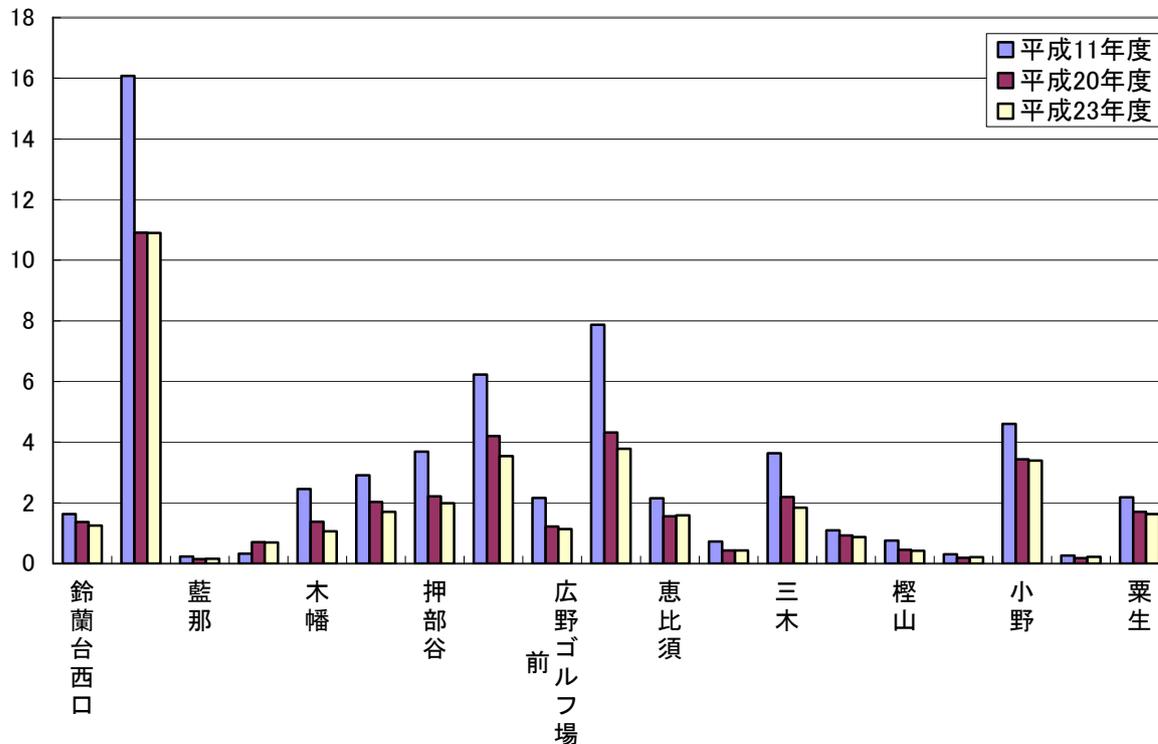


図 2-12 駅別乗降人員の推移 (参照：神戸電鉄資料)

(粟生線の収支状況)

- ・粟生線は平成13年度以降、年間10億円以上の赤字を計上している。

単位：億円

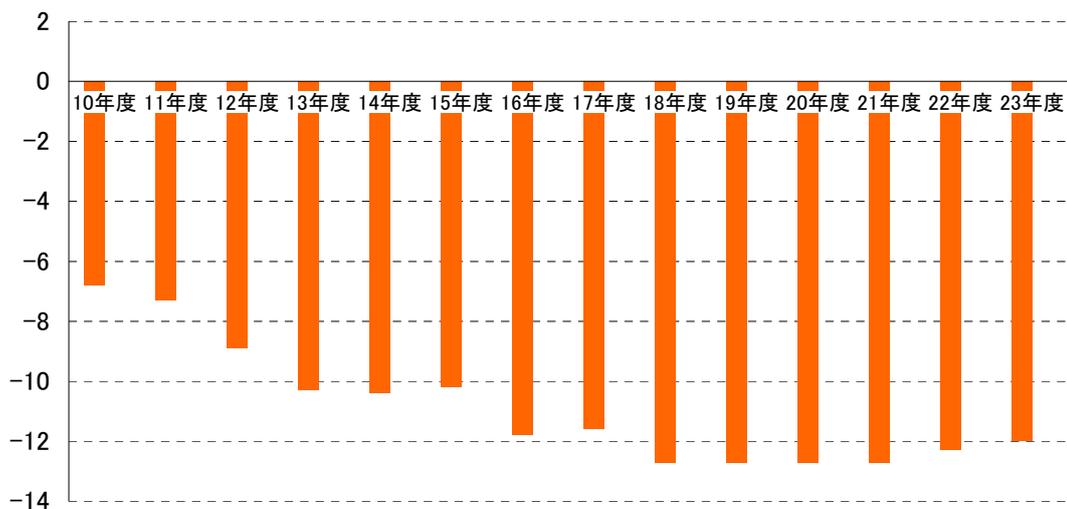


図 2-13 神戸電鉄粟生線の収支の推移 (参照：神戸電鉄資料)

(粟生線の駅周辺施設)

- ・粟生線各駅における駅前広場、駐車場、駐輪場等の施設整備状況を次に示す。

表 2-1 神戸電鉄粟生線各駅の施設整備状況 (参照：神戸電鉄資料)

市域	駅名	駅前広場	P&R 駐車場	駐輪場	バス アクセス	タクシー 乗場	売店	駅務員	駅舎 年度
神戸市	鈴蘭台西口	—	—	—	—	—	—	—	S48
	西鈴蘭台	—	○	○	○	○	○	△	S45
	藍那	—	—	—	—	—	—	—	S57
	木津	○	—	○	—	—	—	—	H11
	木幡	—	○	○	○	○	—	—	S54
	栄	—	—	○	○	—	—	—	S54
	押部谷	—	◎(*)	○	○	○	—	—	S54
三木市	緑が丘	○	—	○	○	○	—	△	S50
	広野ゴルフ場前	—	◎(*)	○	—	—	—	—	S59
	志染	○	○	○	○	○	—	○	S55
	恵比須	○	◎(*)	○	○	○	—	—	H15
	三木上の丸	—	—	○	○	—	—	—	S12
	三木	—	◎(*)	○	○	○	—	—	S13
	大村	—	○(*)	○	○(*)	—	—	—	S26
小野市	檜山	○	○	○	○	—	—	—	H20
	市場	—	—	○	○	—	—	—	H11
	小野	○	◎(*)	○	○	○	—	△	H03
	葉多	—	—	○	—	—	—	—	H11
	粟生	○	○	○	○(*)	○	—	—	H11

※P&R、駐車場：○は一般駐車場、○(\*)はP&Rの駐車場を表す。

(大村は前・連携計画期間中に新設)

◎は前・連携計画期間中に、時間貸に新設または改良し、鉄道利用者への割引制度を導入した駐車場を表す。

(恵比須は前・連携計画期間中に、既設時間貸P&R駐車場に鉄道利用者への割引制度を導入)

※ バスアクセス：○は路線バス、○(\*)はコミュニティバスを表す。

※ 駅 務 員：○は常時配置、△は一定時間帯のみ配置を表す。

### **3. 前・連携計画における取り組み効果の検証**

---

#### **3-1 取り組み効果の検証**

前・連携計画期間中に実施した利用促進施策の内容と、各取り組みの効果を次頁以降に一覧で示す。

尚、個々の取り組みの詳細な内容については、本計画の巻末に参考資料として整理する。

これまでの利用促進施策の取り組み効果一覧表（1/3） 平成22年度～平成24年度

事業方針・課題・目標	年度	内容	事業評価				施策の評価	継続性			
			事業費(千円)		実施効果(千人)						
			協議会	協議会以外	H22	H23			H24		
<b>方針(1)</b> 他の交通機関に対する競争力の向上  沿線住民等に粟生線利用を選択していただけるよう、輸送機能およびサービスの改善等、他の交通機関に対する競争力を向上することが必要  <b>目標)</b> 輸送サービスの改善	<b>事業① 企画きっぷの充実と効果的なPR活動</b>										
	H23～24	神鉄おもてなしきっぷ発売（沿線店舗利用券1,000円付）（H23 3,922セット） ＜方針(3)～④参照＞ （H24 3,985セット）						利用者の好評、一定の発売実績計上	店舗協力内容の拡大や転移減に留意しながら継続		
	H22～24	シニアパス（16箇所）、おもてなしきっぷ（26箇所）、サポーターズくらぶ会員へのサービス提供（27箇所）施設・店舗の開拓（12/31時点）						施策の付加価値向上と地域参画の基盤形成に寄与	更なる拡大に向け継続		
	H22～24	自治体広報誌への情報掲載 （神戸市：広報KOBE、西区：なでしこ通信、北区：きた…延べ10回掲出） （三木市：広報みき…延べ21回掲出） （小野市：広報おの…延べ10回掲出）						市民全戸配布のPR媒体として有効	訴求力向上を図りながら継続		
	H22～24	おでかけガイド、協議会だよりの制作・配布（新聞折込を含む） ＜方針(3)～③参照＞						地域自治会回覧、新聞折込、駅頭・イベントでの配布など広範・タイムリーなPR媒体として有効	訴求力向上を図りながら継続		
	H22～23	企画乗車券販売機設置（H22 緑が丘、三木、小野） （H23 栄、恵比須）	1,827		11	10	28	販売チャンネル拡大による企画乗車券販売増に寄与	PR強化により既存施設の効果向上を継続		
	H22～24	三木金物まつり1dayチケット発売 ＜方針(3)～③参照＞	1,316					一定の発売実績計上	まつりへの電車利用増加施策と併せて継続		
	<b>事業② 割引制度等の充実</b>										
	H22～24	神鉄・高速シニアパス発売（70歳以上 7,000円で20日間乗車可能）（H22 734枚） （発売駅：志染、鈴蘭台、H23より小野）（H23 3,138枚） （使用可能期間を3か月から4か月に拡大）（H24 4,266枚）4～2月分	6,709		29		126	利用者の好評、発売実績の増加により高齢者層の利用増に大きく寄与	効果の高い施策として一層の販売促進を継続		
	H23～24	粟生線～三宮おでききっぷ試験発売 （平日昼間・土休日終日 2,000円で4乗車分）（H23 3,693セット）2/25～5/31 （H24 4,513セット）10/1～2/28	414			6	10	住民要望により試験発売するも発売実績は減少傾向	増収効果が見込める発売数がなければ継続中止		
	H23～24	三木市・福祉パスの拡充（高齢者・身体障害者向け8日間神鉄線フリーチケット） …三木市により実施（H23 2枚/人・年 2,987枚） （H24 1枚/人・年 1,374枚）2月末現在		14,935		24	11	6,865	住民メリットの高い行政施策として想定以上に好評、利用者増加への寄与も大きい	H24規模での継続予定（H25）	
	<b>事業③ ダイヤの改善・運行本数見直し等の運行改善</b>										
	H24	昼間時間帯における利用実態に合わせたダイヤ変更 ・優等列車（急行）運行による速達性向上（長田～鶴越・藍那・木津通過） ・運行本数削減による運転効率改善（志染～小野間：1時間4本→1本） （小野～粟生間：1時間2本→1本）						利用の少ない区間・時間帯の本数減はあるが、効率的なダイヤによる収支改善と速達性向上による利便向上	利用実態に応じて定期的に見直し実施		
	H24	列車短編成化（4→3両）の検討		3,500					利用実態に合った車両運用による保有コスト削減	H24 1編成実施予定。以後順次実施予定	
	<b>事業④ 接客サービスの向上</b>										
	H22	マナーポスター制作・掲出（キャラクターによる啓発ポスター5種類制作、車内掲出）	662					キャラクター使用による注目効果や沿線高校生による地域参画意識向上による駅・車内環境の向上	マナーポスターは一旦完了、グッドマナーキャンペーンは継続実施		
	H22～24	グッドマナーキャンペーン継続実施（高校生によるポスター放送作品制作）						小野市イベントに関連して試験実施	一旦完了		
	H22	沿線高校生製作のポプリ車内吊下	2								
	<b>事業⑤ 利用しやすい駅・快適な駅づくり</b>										
	H22～23	駅周辺植栽整備（H22 鈴蘭台西口、三木上の丸、小野） （H23 西鈴蘭台）	1,729					景観向上による駅待合環境の快適性向上	ハード整備完了		
	H23	キャラクターデザイン座席シート導入（6編成）	5,460	1,600				車内環境改善による快適性向上	ハード整備完了		
	H23	駅前市民トイレの整備（三木）…兵庫県・三木市による整備		12,000				駅待合環境改善による快適性向上	ハード整備完了		
	H23	待合所の整備（粟生）…兵庫県・小野市による整備		8,000					（他は既存施設更新時に検討）		
	<b>方針(2)</b> 駅勢圏（駅の集客範囲）の拡大  施設情報や公共交通機関の運行情報の提供とP&R、自転車・バイクの円滑な駐輪等に留意した鉄道と他の交通機関との乗り継ぎ円滑化などの駅へのアクセス改善や、駅を中心としたまちづくりが必要  <b>目標)</b> 駅アクセスの改善と駅の活性化	<b>事業① 駐停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信</b>									
H22～24		パーク＆ライド駐車場整備（時間貸駐車場整備、鉄道利用者への割引適用） （H22 小野） （H23 押部谷、広野コルポ場前、恵比須＜割引券発行機＞、三木、小野第2）	4,771		2		6	20	27,776	一定の恒常利用があり、自動車による駅へのアクセス向上に寄与	可能箇所へのハード整備完了（更なる稼働率向上を図る）
H23		駐輪場屋根整備（木津）	2,520							雨天時等の利便性向上	ハード整備完了（利用者増加を図る）
H22～23		駅周辺案内看板設置（H22 栄） （H23 緑が丘）	1,082						1,129	駅周辺施設やハイキングコース、名所・旧跡等の域外来訪者への効果的な情報提供	ハード整備完了（沿線ハイキング等の誘致に活用）
H22・24		他路線との接続情報を含む時刻表をホームページ、おでかけガイドに掲載								きめ細かな時刻表情報提供による利便性向上	一旦完了（ダイヤ変更時に見直し）
—		キス&ライド（送迎）用駐停車スペースの確保								現状では該当地なし	今後の適地状況に応じて検討
<b>事業② バスとの効果的な接続</b>											
H22		バスアクセスマップ作成	2,730								
H23		お出かけガイドへの各市域バスアクセスマップ・時刻表掲載・配布 ＜方針(3)～⑦参照＞								従来十分でなかったアクセスバス関連情報、列車別の時刻表情報を保存版として広く頒布し利便性向上	一旦完了（ダイヤ、バス路線変更時等に適宜見直し）
H24		北播磨総合医療センター～駅へのアクセスバスの検討（三木市・小野市）									継続検討
<b>事業③ 駅前の特色あるイベントの開催</b>											
H22		キャラクター列車出発式実施（小野駅）	336								
H22		駅前朝市実施（緑が丘駅前）			1					地域住民団体や沿線大学・高校生による手作りイベントを通じて活性化への参画意識向上に寄与	広く地域の主体的参画の得られる企画を支援
H23		ラッピング列車お披露目式実施（志染駅）＜方針(3)～⑥参照＞									
H24		高校生レストラン他の駅前イベント実施（粟生駅前）									
<b>事業④ 駅の空きスペースの活用</b>											
—	駅の空きスペースを活かした活性化策の展開								実施環境整わず（ボランティア等の協力確保に至らず）	地域協力の得られる施策について継続検討	

これまでの利用促進施策の取り組み効果一覧表（2/3） 平成22年度～平成24年度

事業方針・課題・目標	年度	内容	事業評価				施策の評価	継続性
			事業費(千円)		実施効果(千人)			
			協議会	協議会以外	H22	H23		
方針(3) 定期利用者と交流人口の拡大	事業① 沿線立地企業等への粟生線通勤・通学利用のPR							
	H23	沿線企業・学校への公共交通利用に関するアンケート実施 <方針(4)-①参照>					沿線企業・学校の実態把握と個別のコミュニケーション関係の構築	継続的なコミュニケーション活動による協力呼びかけ
課題) 沿線企業等への通勤・通学利用促進に加え、観光資源の発掘、魅力向上、PRすることが必要  目標) 定期利用者の増加と新規利用者の開拓	H24	アンケート実施企業への戸別訪問による協力要請 <方針(4)-①参照>					H25年4月発売分から実施	実施効果を踏まえて制度継続可否の検討
	事業② 小中学校等への粟生線利用の促進と支援							
	H22～24	農業体験学習企画実施(粟生) (H22 延べ18校 1,466人参加) (H23 延べ6校 355人参加) (H24 延べ5校 283人参加)	1,643 85 98		3 1 1			
	H23～24	環境体験学習企画実施(三木山森林公園) (H23 延べ4校 256人参加) (H24 延べ3校 148人参加)	72 42				学校行事での新規利用開拓促進、次世代利用者である児童・生徒への公共交通利用の意識付け	参加生徒数拡大努力と利用啓発教材(紙芝居)等も活用した内容の充実
	H22～24	七夕列車、クリスマス列車、グッドモーニング<方針(3)-⑥、(1)-④参照>や、加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会のポスターコンクール等とタイアップした生徒作品の車内掲出 <方針(3)-③参照>						
	H22～24	工場見学会等を通じた幼稚園児・小学生への公共交通利用啓発						
	H23～24	学校行事での利用に対する交通費補助制度実施(三木市)					学校行事での新規利用開拓促進	制度のPRIによる利用機会の拡大
	H24	公共交通利用啓発教材(紙芝居)制作・イベント等での活用(神戸電鉄)	532				教材制作中	各種イベント等で啓発活動に活用
	事業③ 地域間の各イベントとの連携強化							
	H22～24	三木金物まつり1dayチケット発売、利用啓発ステージイベント実施等 (H22 チケット発売数 215枚) (H23 チケット発売数 281枚) (H24 チケット発売数 290枚)	510 245 539		0.4 1 1			大規模沿線イベントである金物まつりにおける鉄道来場者の拡大と多数の来場者に対する効果的な利用啓発活動
H22～24	キャラクター着ぐるみ、ミニトレインによる利用啓発活動とホームページ、協議会だより等でのPR (着ぐるみ: 延べ20日稼働) (H22 着ぐるみ製作) (ミニトレイン: 延べ24日稼働) (H23 ミニトレイン製作) (H24 沿線イベント運営)	1,410 3,662 590					沿線各所の地域イベントへの出張活動により、粟生線に対する地域住民の関心・親近感の向上に寄与	取り組みを継続
H24	加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会イベントとの連携 (北播磨の鉄道ポスターコンクール、加古川線等絵画公募展、清盛トレイン、婚活列車企画、粟生駅前イベント<方針(2)-③参照>など)						加古川線・北条鉄道沿線地域との連携による利用促進活動範囲の拡大	連携効果の向上を目指して継続
事業④ 沿線地域における観光資源の魅力の活用								
H22～24	沿線観光資源と関連したスタンプラリー実施・企画乗車券発売 (H22 スタンプ&グッズラリー、ウォーク&スタンプラリー、1周年記念ライブラリー) (H23 グルメ&スタンプラリー<神鉄おもてなしきっぷ>、ウォーク&スタンプラリー) (H24 神鉄おもてなしきっぷ発売)	10,401 4,158 1,687		14 11 3			地域店舗の参画協力や自然環境を活かした企画により、利用者の好評と一定の発売実績計上	魅力ある企画の付加検討も含め、実施効果の向上を目指して継続
H22～24	イベント等での沿線市観光パンフレット配布、小野市観光広告看板掲出(H22西鈴蘭台)などのPR活動						域外からの旅客誘致をPR	機会に応じて継続実施
事業⑤ 魅力的な車窓からの景観づくり								
H22～24	沿線への植樹・植栽実施 (H22 見津車庫内桜植樹、コスモス・ヒマワリ植栽)…神戸電鉄により実施 (H22 木津駅周辺桜・モミジ植樹、葉多駅周辺菜の花植栽) (H23 木津駅周辺桜・モミジ植樹、葉多駅周辺菜の花植栽)	1,178 1,267	4,840				車窓からの景観向上による乗車環境の快適性向上	ハード整備完了
H22	粟生線フォトコンテスト実施・ポスター制作(1周年記念企画)						利用者からの公募企画による参画意識の向上	サポーターズくらぶ活動での同種企画の実施を検討
事業⑥ 鉄道に関するイベントの開催								
H22～24	トレインフェスティバルでの地域参画イベント実施 (H22 来場 1,835人) (粟生線屋台村、沿線大学・高校生協力イベントなど) (H23 来場 2,903人) (H24 来場 3,493人)	1,236 807 688		1 1 1			来場者増加に伴う鉄道利用の増加、地域参加企画による参画意識の向上	魅力ある企画検討など、実施効果の向上を目指して継続
H22～24	沿線の特徴を活かしたイベント列車運行 (H22 七夕列車、クリスマス列車、ミステリートレイン、ライブ列車運行) (H23 七夕列車、クリスマス列車、ミステリートレイン、おやじジャズ列車運行) (H24 七夕駅装飾、クリスマス列車、ミステリートレイン、おやじジャズ列車運行)	2,077 1,094 821		1 0.2 0.3			鉄道に対する親しみを感じたり楽しんで参加できる企画の実施を通じて支持・協力者の拡大と利用啓発効果の向上	魅力ある企画検討など、実施効果の向上を目指して継続
H23	沿線大学と連携した車両ラッピング装飾・運行、お披露目イベント実施	8,743			1		活性化への取り組みのシンボル列車として日常運用や各種イベント運用を通じた利用啓発メッセージ発信に寄与	ハード整備完了、一層の効果的な利用啓発の訴求に活用
—	サイクルトレインの検討						現状では安全確保上の問題から困難	一旦検討終了
事業⑦ ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信								
H22～24	おでかけガイド制作・配布 (H22 列車別発着時刻表掲載) (H23 バスアクセスマップ掲載) (H24 ダイヤ変更後の列車別発着時刻表掲載)	5,110 8,901 3,027		2			粟生線の現状や協議会の取り組み状況、時刻表・バスマップ・企画乗車券等のきめ細かな利用情報を、新聞折込や駅頭・沿線イベント等で広く発信し、利用啓発への理解促進のための有力媒体として寄与	沿線地域への有効な情報発信媒体として継続実施
H22～24	協議会だより制作・配布 (H22 4回発行) (H23 4回発行) (H24 2回発行予定)	2,297 2,538 861						
H22	協議会ホームページ制作・情報発信	200					タイムリーな情報発信手段として有効に活用	沿線地域への有効な情報発信媒体として継続実施
H22	利用促進PR新聞広告	3,213		1			現状の非利用者に対する訴求手段として活用	一旦終了
H23	駅PR放送設備整備(沿線高校生による利用促進放送)	7,777					駅利用者への聴覚的な訴求による情報発信効果向上	ハード整備完了、一層の利用促進訴求に活用
H24	協議会PR用駅ポスター枠、チラシラック設置	413					駅利用者への聴覚的な訴求による情報発信効果向上	ハード整備完了、一層の利用促進訴求に活用

これまでの利用促進施策の取り組み効果一覧表（3／3） 平成22年度～平成24年度

事業方針・課題・目標	年度	内容	事業評価			施策の評価	継続性		
			事業費(千円)		実施効果(千人)				
			協議会	協議会以外	H22			H23	H24
<b>方針(4)</b> 公共交通優先利用行動の喚起	<b>事業① 企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施</b>								
課題) 沿線地域におけるモビリティ・マネジメントの実施や行政等による公共交通の率先利用等、公共交通優先利用行動の喚起が必要  目標) 公共交通利用意識の向上	H22	利用啓発FM番組放送(Kiss FM KOBE)、FM局DJによる利用啓発車内放送実施(1周年記念企画)					現状の非利用者に対する訴求手段としてFM放送媒体を活用	一旦終了	
	H23	沿線住民へのTFP(トラベル・フィット・バック・プログラム)アンケート実施(回答数1回目:3,934人、2回目:1,627人) 沿線企業・学校へのアンケート実施(回答数323社35校、計358) 沿線住民参加によるシンポジウム開催(参加者数313人) 利用啓発小冊子・ポスター制作、配布・掲出(「粟生線がなくなる日!」「粟生線の問題はあなたの生活の問題です」)	11,604			10	沿線住民や沿線企業・学校の利用実態把握と利用行動を考える契機の提供、利用行動定着の働きかけに活用  地域参画による企画を通じた参画意識の向上 沿線地域に現実の状況を正しく理解してもらうとともに、関心を持って考えてもらえるような内容での情報発信を実施	引き続きアンケート調査等により利用協力者の囲い込みと拡大を図る  サポーターズクラブを中心とした参画企画を展開  引き続き効果的な方法により情報発信を実施	
	H24	沿線住民へのフォローアップアンケート実施(回答数682人) 沿線企業・自治会等への個別説明・協力要請 利用啓発小冊子・ポスターのリニューアル制作、配布・掲出(「乗らないと残りません」) 新聞全面広告によるくらぶ入会・通勤転換支援制度への行動喚起 …神戸電鉄により実施	247 885				6	前年度の取り組みのフォローアップにより、継続的な地域住民・企業・学校への行動転換を促す働きかけとして実施	実際の地域の利用行動拡大に繋がるよう取り組み継続
	<b>事業② 粟生線キャラクター等による活性化のPR</b>								
	H22	利用啓発ポスター、駅看板(新開地駅・高速神戸駅)の制作・掲出	481						
	H22	キャラクター列車装飾・運行	344						
	H23	車両ラッピング装飾・運行、お披露目イベント実施<方針(3)-⑥参照>						沿線高校生の考案した粟生線活性化のシンボルキャラクター「しんちゃん」「てつくん」をあらゆる機会で見出すことにより、活性化活動への認知度・共感度を向上	ハード整備完了、既存設備の更なる活用を図るほか、効果的なキャラクターによるPR活動を継続
	H22~24	キャラクターを活用した利用啓発グッズによる沿線イベント等での啓発活動(H22) (H23) (H24)	772 2,620 707						
	<b>事業③ 沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動</b>								
	H22~24	市職員へのEメール、アンケート、文書等による粟生線利用の呼びかけ 市職員出張時の交通費として粟生線回数券支給(三木市 H24/1~)					5 4	通勤・出張や休日での粟生線利用の促進施策として実施	利用機会の拡大のため継続実施
<b>方針(5)</b> 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保	<b>事業① 国庫補助制度も活用した鉄道施設の効果的な更新</b>								
課題) 国庫補助制度も活用しながら施設の更新、利用者のニーズに対応した施設への改良により、安全で安定した鉄道輸送サービスの確保に努めていくことが必要  目標) 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保	H22~24	施設の更新・改良による安全性の向上 ATS改良、車両制動装置改良、コンクリート枕木化、レール交換、ホーム改良(志染)等の安全対策工事実施					安定的な安全運行のための基盤整備に寄与	継続実施	
	H22~24	<b>事業② 利用者動向・ニーズに応じた輸送サービスへの改善</b> 利用者・住民ニーズ把握のための各種アンケート実施 (H22 トレインフェスティバル等のイベントやシニアバス購入者等へのアンケート実施) (H23 モビリティ・マネジメント 沿線住民・企業・学校アンケート<方針(4)-①参照> 沿線住民による独自アンケート(三木市)実施) (H24 モビリティ・マネジメント 住民アンケートのフォローアップアンケート実施<方針(4)-①参照>)					アンケート調査結果等による利用者ニーズについて施策への反映に活用(シニアバスの期間延長、粟生線~三宮お得意きっぷ発売など)	継続実施	
<b>方針(6)</b> 沿線住民との協働	<b>事業① 沿線地域との協力体制の構築</b>								
課題) 関係者が一丸となり、粟生線利用の促進に向けた協力体制を構築していくことが必要  目標) 沿線住民と一体となった協力体制の構築	H22~24	各種沿線イベントやイベント列車、体験学習、シンポジウム等の住民参加プログラムの実施<方針(3)-④、⑥参照>	414				地域参画による企画・活動を通じた参画意識の向上・浸透	魅力ある企画の付加検討も含め、実施効果の向上を目指して継続	
	H23	沿線高校生による応援メッセージ絵画制作・駅看板掲出、放送作品制作、研究授業実施等の各種利用啓発活動協力 沿線住民によるアンケート・存続署名活動の実施(三木市)	627						
	H24	「粟生線サポーターズクラブ」発足・会員募集活動(7/23入会受付開始) (1/28時点会員数2,808人<初年度目標5,000人>) くらぶ協力店舗・施設の開拓(12/31時点27箇所)	2,711				6	組織的な利用啓発、利用促進行動拡大の母体となる体制の構築	目標会員数の確保と、会員による主体的な粟生線利用行動拡大に繋がる取り組みを展開
	H24	くらぶ会員による集会開催・会員による参画活動の検討・実施	946					会員の主体的参画活動を通じた参画意識の向上・浸透	実施に向け検討中
	<b>事業② 無人駅のボランティア等による有人化</b>								
	—	ボランティア駅長等による無人駅の活性化						実施環境整わず(ボランティア等の協力確保に至らず)	地域協力の得られる施策について継続検討
<b>事業③ 企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップ(販売拠点)の設置</b>									
H22~24	シニアバス(16箇所)、おもてなしきっぷ(26箇所)、サポーターズクラブ会員へのサービス提供(27箇所)施設・店舗の開拓(12/31時点) <方針(1)-①参照>						施策の付加価値向上と地域参画の基盤形成に寄与	更なる拡大に向け継続	

※H24の事業費は3月時点での見込み。  
 ※H24の実施効果は4~12月分。(効果測定が可能なものについて記載)  
 ※実施効果において、企画乗車券による効果は企画乗車券販売機の項目に一括して表記。

H22年度  
H23年度  
H24年度

協議会事業費 合計(千円)	その他事業費 合計(千円)	実施効果合計 (千人)
51,133	4,840	65
94,341	36,535	177
17,848	13,515	203

実施効果合計は協議会事業の合計

(三木市福祉バスを含む実施効果合計は、H23年度:201千人、H24年度:214千人)

### 3-2 課題点の整理

取り組み方針別に、取り組み効果の検証を踏まえ、課題点を整理する。

#### <方針1> 他の交通機関に対する競争力の向上

(目標) 輸送サービスの改善

(課題) 沿線住民等に粟生線利用を選択していただけるよう、輸送機能およびサービスの改善等、他の交通機関に対する競争力を向上することが必要

(取組の評価)

- (1) 企画きっぷによる割引制度の導入は、販売実績から利用者増に大きく寄与していると評価されるが、「粟生線～三宮お得切符」は目標販売数に達しておらず、旅客運輸収入の減収が懸念される
- (2) ダイヤの見直しは利用実態に合わせて実施されており、効率的な運行業務や特定区間における速達性向上が図られた
- (3) マナー向上の取組、植栽、座席シート、トイレ、待合所等の整備により、一定の快適性向上が図られた

(残された課題)

- (1) 企画きっぷや割引制度の充実、利用実態に合わせたダイヤ変更など、方針に合わせた取り組みを進めてきたが、旅客運輸収入の減収や利用客の逸走に繋がっていないか、個々の取り組みに対し継続的に効果を確認すると共に、効果の高い事業の推進が必要

#### <方針2> 駅勢圏（駅の集客範囲）の拡大

(目標) 駅勢圏（駅の集客範囲）の拡大

(課題) 施設情報や公共交通機関の運行情報の提供とパーク&ライド、自転車・バイクの円滑な駐輪等に留意した鉄道と他の交通機関との乗り継ぎの円滑化などの駅へのアクセス改善や、駅を中心としたまちづくりが必要

(取組の評価)

- (1) パーク&ライド駐車場利用者は増加傾向にあり、自動車による駅へのアクセス向上や自動車から粟生線利用への転換に寄与していると評価される
- (2) バスマップの作成や時刻表等が掲載されたお出かけガイドの配布により、利用者増に向けた路線バスとの連携について一定の取組が図られた
- (3) 地域と連携したイベント実施など、地域住民団体との取組が進められたものの、駅の空きスペースを活かした活性化策は実施されておらず、地域活動や駅周辺の活性化と連携・連動した粟生線活性化策の推進には至っていない

(残された課題)

- (1) パーク&ライド駐車場や駐輪場屋根の施設整備効果を最大限に活用するため、適切な

PRを進め、利用者数の増加に繋げることが必要

- (2) 粟生線への利用転換が期待できる、駅勢圏の居住者や通勤・通学・通院者の移動手段の確保に向け、既存路線バスの再編などによる二次交通の確保が必要
- (3) 粟生線の利用者を増やすには、駅周辺の人口増に向けたまちづくりの見直しが重要であり、駅周辺における用途地域の見直しや病院などのサービス施設の誘致、沿線店舗や商店街と連携した活性化などの取り組みが必要

### ＜方針3＞ 定期利用者と交流人口の拡大

(目標) 定期利用者の増加と新規利用者の開拓

(課題) 沿線企業等への通勤・通学利用促進に加え、観光資源の発掘、魅力向上、PRすることが必要

(取組の評価)

- (1) 沿線企業への積極的な粟生線利用の働きかけとして、アンケートの実施や個別訪問、粟生線利用転換のための支援制度の検討など、一定の取組が図られた
- (2) 小中学校等への粟生線利用の働きかけとして、小学校の校外学習受け入れやイベントの合同実施など、一定の取組が図られた
- (3) 鉄道イベント開催や地域イベントとの連携は、ホームページ等の広報媒体を活用し、地域の観光資源も活用しながら、積極的な取組が図られた

(残された課題)

- (1) 定期利用者の減少傾向が続いていることから、新たに導入する通勤定期利用転換促進支援制度への誘導など、自動車通勤からの転換促進に向けた取り組みを進め、定期利用者の減少傾向に歯止めを掛けると共に利用者の増加に繋げることが必要
- (2) 沿線小学校の校外学習や、沿線市の既存イベントとの連携を強化し、更なる利用者の増加に繋げる支援制度の構築などが必要

### ＜方針4＞ 公共交通優先利用行動の喚起

(目標) 公共交通利用意識の向上

(課題) 沿線地域におけるモビリティ・マネジメントの実施や行政等による公共交通の率先利用等、公共交通優先利用行動の喚起が必要

(取組の評価)

- (1) 企業や沿線住民等へのモビリティ・マネジメントは、TFPアンケートに加えて個別訪問のうえ粟生線の重要性を働きかけており、積極的な取組が図られた
- (2) 沿線自治体職員等への粟生線利用の働きかけは、メールやアンケートなどを通じ、出勤時や出張時の積極的な活用について一定の取組が図られた

(残された課題)

- (1) モビリティ・マネジメントは継続的な働きかけが肝要であり、企業、学校、住民など

に対する繰り返しの取り組みが必要

- (2) 沿線自治体職員の通勤・出張時の粟生線利用の徹底と共に、「ノーマイカーデー」、「マイバス・マイ電車の日」などの推進の徹底が必要

#### ＜方針5＞ 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

(目標) 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

(課題) 国庫補助制度も活用しながら施設の更新、利用者のニーズに対応した施設への改良により、安全で安定した鉄道輸送サービスの確保に努めていくことが必要

(取組の評価)

- (1) 安全な輸送サービスの確保に向け、国庫補助制度の適切な活用が図られた
- (2) 利用者の意見に応じた企画きっぷの試験販売など、適切な対応が図られた

(残された課題)

- (1) イベント時に実施するアンケートにおける利用者の意見に対し、適切な対応に努め、安全で安定した輸送サービスの確保が必要

#### ＜方針6＞ 沿線住民との協働

(目標) 沿線住民と一体となった協力体制の構築

(課題) 関係者が一丸となり、粟生線利用の促進に向けた協力体制を構築していくことが必要

(取組の評価)

- (1) 沿線地域との協力体制の構築は、粟生線サポーターズクラブの設立や集会の開催、沿線高校による活動の推進などが評価されるものの、ボランティア駅長等による無人駅の活性化は進められていないなど、地域と連携した取組や、地域が主体となった取組の推進は不十分である
- (2) 販売拠点の設置は、協力施設や店舗が開拓され、一定の取組が図られた

(残された課題)

- (1) サポーターズクラブについて、沿線住民の会員数が十分伸びていない状況を踏まえ、設立目的である利用促進や地域の活性化に繋がる活動の活性化に向け、会員数や協力店舗の拡充と共に、サポーターズクラブによる積極的な利用促進活動の推進が必要
- (2) 地域の鉄道は地域住民自らが利用して残していくことが基本であり、粟生線の安定的な運行継続には利用者を増やしていくことが重要であることを沿線地域に適切に伝えると共に、沿線地域自らによる粟生線の活性化、利用促進に向けた取り組みの推進に向けた働きかけが必要
- (3) 既存の支援制度を効果的、効率的に活用し、地域活動の活性化に努めることが必要

## 4. 神戸電鉄粟生線の存続に向けた支援の概要

前・連携計画に基づき、平成 22 年度から年間輸送人員の目標達成に向けた取り組みを進めてきたが、前章で述べたとおり粟生線の減少傾向に歯止めは掛かっていない。

更に、国の事業仕分けの結果、粟生線活性化に対する国の支援の平成 23 年度以降打ち切りが決まったことにより、行政は神戸電鉄から粟生線の存続に向けた支援要請を受けた。

### 1 行政支援の主旨

神戸電鉄粟生線については、地域住民の通勤や県立高校等への通学など日常生活を支える重要な公共交通であることに鑑み、神戸電鉄による経営改善努力、神戸電鉄及び沿線 3 市を中心とした利用促進の継続を前提に、県と 3 市による 5 年間の支援が決まった。

### 2 支援の内容

#### (1) 行政の支援

##### ① 無利子貸付

40 億円を無利子貸付することで、神戸電鉄の支払利息の軽減を図る。

##### ② 国庫補助制度の活用

安全に資する施設整備等を対象とする国庫補助制度を最大限活用し、施設整備費・修繕費の軽減を図る。

#### (2) 神戸電鉄による経営改善

神戸電鉄は、年間約 3 億円の更なる経営改善を図る。

#### (3) 利用促進の強化

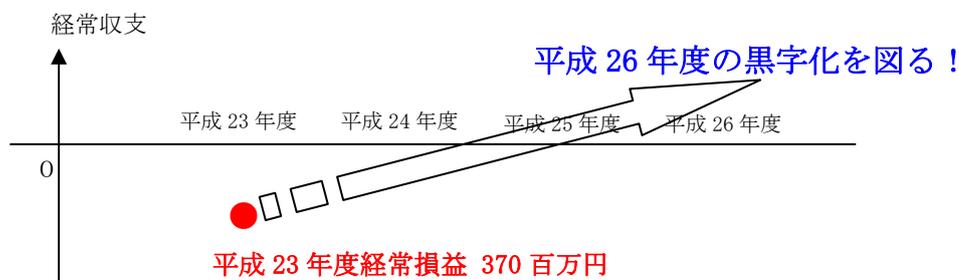
① 粟生線活性化協議会による利用促進運動を強化し、利用率の維持を図る。

全線の旅客運輸収入を、対前年度比 0.7% 減以内に抑制することで目標設定

② 利用が低迷した場合、三木市と小野市が旅客運輸収入の補填(約 1 億円上限)を行う。

### 3 支援の効果

支援 3 年目(平成 26 年度)に神戸電鉄の鉄道全線において経常収支の黒字化を図る。



### 4 利用促進の重要性

行政の支援や神戸電鉄の経営改善には限界があることから、粟生線を長期的に維持・存続していくためには、利用者数の増加(旅客運輸収入の安定)が必要不可欠である。

## 5. 神戸電鉄粟生線活性化の方向性

### 5-1 基本方針

粟生線は、沿線地域における重要な移動手段（交通手段）であるとともに、人や地域間・文化の交流、地域の活性化など、沿線地域にとって重要な役割を担っている。

また、少子高齢化が進行するなか、誰もが気軽に快適に活動できる“豊かなまち”を実現するため、粟生線等の公共交通を中心としたまちづくりが求められている。このことから、地域や自治体、神戸電鉄等の各関係者が主体となって、粟生線活性化に向けて取り組んでいくことが不可欠である。

平成 24 年度からは、神戸電鉄粟生線の維持・存続に向けて、神戸電鉄による一層の自助努力を前提に県及び沿線 3 市による新たな支援がスタートした。しかしながら、民間企業単独では粟生線の維持・存続が困難な、極めて厳しい収支状況であることに何ら変わりはなく、維持・存続のためには、地域の相応の支援・協力が必要であり、何よりも利用実績の増加が欠かせない。今まで以上に利用を増やしていくためには、地域による主体的な取り組み・参画が極めて重要となっている。

以上のことから、前計画からの継続事業の効果をさらに高めていくとともに、特に、前計画では十分な取り組みに至らなかった、恒常的な利用者層としての「通勤定期利用者の拡大」施策、粟生線サポーターズクラブ等を通じた「沿線地域が主体となった利用促進・乗車運動」の展開、中長期的な視点も含めた「駅中心のまちづくり」の検討に重点を置きながら、事業を進めていくこととする。

以上に基づき、計画の前提となる理念、および基本方針を以下の通り定める。

#### ◆ 理念

**地域が支え、地域を支える粟生線の維持存続と活性化の実現**

#### ◆ 基本方針

基本方針	
方針 1	他の交通機関に対する競争力の向上
方針 2	駅勢圏（駅の集約範囲）の拡大
方針 3	定期利用者と交流人口の拡大
方針 4	公共交通優先利用行動の喚起
方針 5	安全で安定した鉄道輸送サービスの確保
方針 6	沿線住民との協働と沿線住民の主体的な取り組み・参画
方針 7	駅を中心としたまちづくりの推進

## 5-2 計画目標

平成24年度からスタートした新たな支援では、神戸電鉄粟生線の維持・存続に向けて、平成24～28年度の5年間、全線の旅客運輸収入を対前年0.7%減に留めることを目標としている。そこで、支援スキームとの整合を図るため、具体的な目標は、粟生線において運輸収入が対前年0.7%減少ラインの各年度数値を計画期間内でほぼ上回る水準とし、**700万人台**とする。計画期間は、支援期間に合わせて平成28年度までの4年間とする。

計画期間中の年間輸送人員（700万人台）の確保を目指す

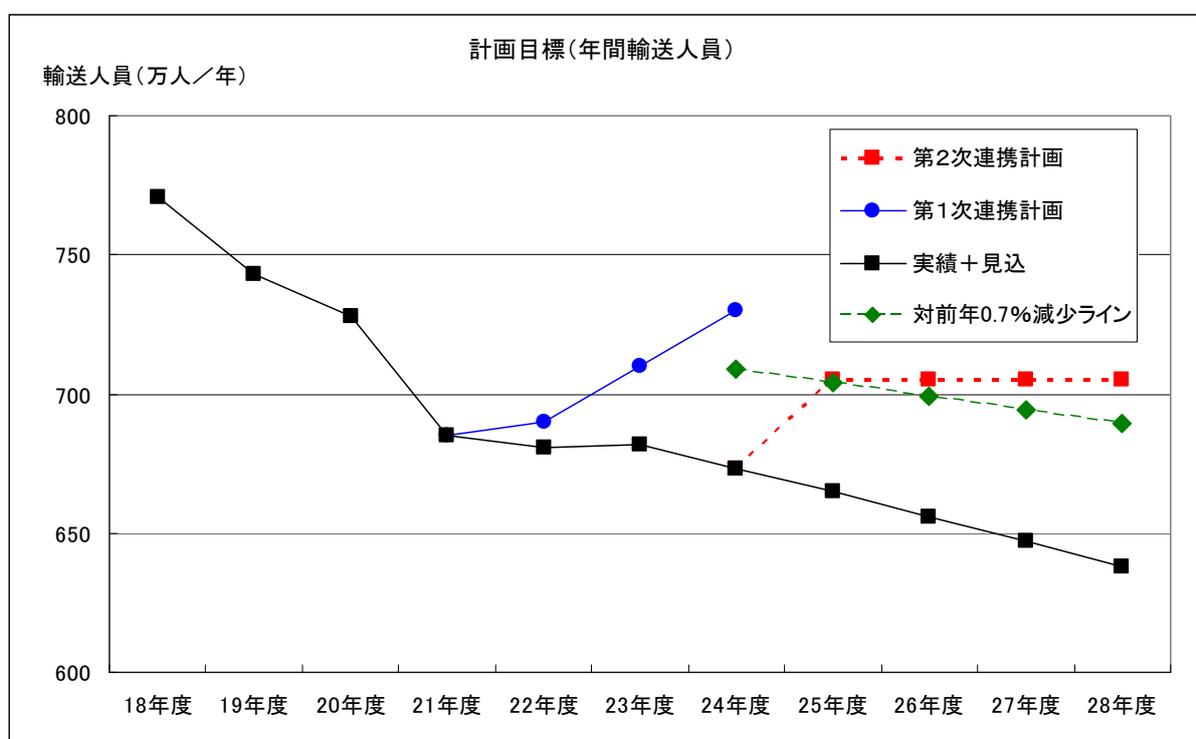


図 5-1 計画目標（年間輸送人員）

上記の目標の達成に向けた具体的な取り組み方針を次に示す。

### 方針1 他交通機関に対する競争力の向上

#### (目標) 輸送サービスの改善

- ・沿線内外の施設やイベントと連携した、魅力ある企画きっぷの充実や新たな企画の検討を図るとともに、さらなる利用促進のために効果的なPRを行う。
- ・潜在的な利用者層の掘り起こしのため、高齢者を対象とする割引制度を継続する。また、その他の割引制度についても、利用促進効果や実施費用等を踏まえて実現の可能性を検討する。
- ・優等列車運行による速達性の向上や利用実態に合わせた運行形態（ダイヤ、運行本数等）について検討し、現状の利便性、効率性の改善を図る。
- ・継続的な社員教育の実施により、利用者に満足いただける接客サービスの向上を図る。
- ・案内施設の整備など駅施設の改善により、安心して利用しやすい駅・車内空間づくりに努める。

### 方針2 駅勢圏（駅の集客範囲）の拡大

#### (目標) 駅アクセスの改善と駅の活性化

- ・パーク&ライド、キス&ライド、サイクル&ライドを促進するため、既存の駐車場や駐輪場の定期的なPRや、乗り継ぎ情報の提供を行う。
- ・駅へのアクセスバスの改善やバスダイヤの調整により、アクセス性の向上を図る。また、駅情報、バスおよび列車の運行情報、駐車場情報、自転車・バイクの駐輪場情報などを継続して発信することにより、誰もが使いやすい駅にする。
- ・駅前における特色あるイベントの開催により、駅の活性化と鉄道の利用促進を図る。
- ・駅の空きスペースを活用し、駅の賑わいを創出する活性化策を展開する。

### 方針3 定期利用者と交流人口の拡大

#### (目標) 定期利用者の増加と新規利用者の開拓

- ・沿線に立地する企業等へ積極的な粟生線の通勤・通学利用を働きかけ、鉄道利用を促進する。
- ・小・中学校等の教育機関に対して、校外学習や社会見学等での粟生線利用の促進が図れるよう、働きかけおよび利用時のサポート等を行う。
- ・沿線地域で開催される各イベントの地域間の連携を強化する。
- ・沿線地域における観光資源の発掘、魅力の向上やPRにより交流人口を増加させ、粟生線沿線以外からの利用促進に繋げていく。
- ・花をテーマにした快適で魅力的な車窓からの景観づくり（フラワーライン計画）に努め、粟生線のイメージ向上と、景観スポットでの地域交流等による鉄道利用の促進を検討する。
- ・粟生線沿線や鉄道の魅力を発信するイベントを開催し、沿線内外の鉄道利用の促進を図る。
- ・イベントやホームページ等による広報を通じて、粟生線の魅力を発信していく。

#### 方針4 公共交通優先利用行動の喚起

##### (目標) 公共交通利用意識の向上

- ・沿線に立地する企業および学校、転入者等に対して公共交通の利用意識を向上するためにモビリティ・マネジメントを実施し、自発的な栗生線の優先利用行動を喚起する。
- ・栗生線が地域にとって身近な存在で、持続して親しまれていくよう、栗生線のキャラクターやロゴマーク、ラッピング電車等により、活性化をPRする。
- ・行政等の職員が率先して、栗生線等の公共交通機関を利用するリーダーとなってアクションを起こす。

#### 方針5 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

##### (目標) 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

- ・国庫補助制度も活用しながら、鉄道施設の効果的な更新等を図る。
- ・的確に利用者ニーズを把握し、これに応じた輸送サービスへの改善を図るとともに、利用者に事業を評価してもらうしくみづくりを行うことでPDCAサイクルに従った事業展開を図る。

#### 方針6 沿線住民との協働と沿線住民の主体的な取り組み・参画

##### (目標) 沿線住民による自主的・主体的な取り組み・参画

- ・沿線地域住民の意見や要望等の把握に努め、栗生線の活性化や利用促進の協力体制を構築する。また、沿線住民の主体的な行動を喚起するため、意識啓発を行うと共に、沿線住民の自主的・主体的な組織・団体の設立と具体的な取り組みをサポートする。
- ・無人駅におけるボランティア活動での案内や清掃等による有人化により、地域の財産となる駅にしていく。
- ・企画きつぷの販売や情報発信を行うフレンドショップの設置、栗生線サポーターズくらぶ加盟店の拡充により、地域との協働体制を構築する。
- ・地域や個人の鉄道利用を推奨するため既存の制度をPRすると共に新たな支援制度を検討する。

#### 方針7 駅を中心としたまちづくりの推進

##### (目標) 駅周辺への都市機能等の集約と駅周辺の賑わい作り

- ・駅周辺に都市機能を集積するための施策を検討することにより、駅周辺人口の増加を図る。
- ・駅周辺でのサービス施設の誘致・集約により、駅周辺人口の増加を図る。
- ・駅周辺の空き地や店舗の有効活用、既存の店舗や商店街との連携により、賑わい拠点の創出を図る。

### 5-3 取り組むべき事業

基本方針、目標を達成するために取り組むべき事業を次に示す通りに定める。

表 5-1 取り組むべき事業一覧

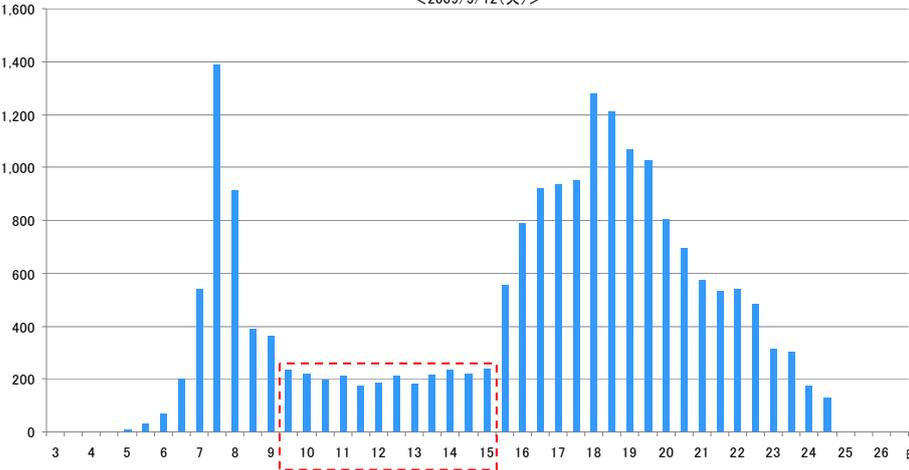
計画の目標		事業
方針1	輸送サービスの改善	①企画きっぷの充実と効果的なPR活動
		②割引制度等の充実
		③ダイヤの改善・運行本数見直し等の運行改善
		④接客サービスの向上
		⑤快適な駅・車内空間づくり
方針2	駅アクセスの改善と駅の活性化	①駅停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信
		②バスとの効果的な接続
		③駅前の特色あるイベントの開催
		④駅の空きスペースの活用
方針3	定期利用者の増加と新規利用者の開拓	①沿線立地企業等への粟生線通勤・通学利用のPR
		②小・中学校等への粟生線利用の促進と支援
		③地域間の各イベントとの連携強化
		④沿線地域における観光資源の魅力的な活用
		⑤魅力的な車窓からの景観づくり
		⑥鉄道に関するイベントの開催
		⑦ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信
方針4	公共交通利用意識の向上	①企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施
		②粟生線キャラクター等による活性化のPR
		③沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動
方針5	安全で安定した鉄道輸送サービスの確保	①国庫補助制度も活用した鉄道施設の効果的な更新等
		②利用者動向・ニーズに応じた輸送サービスへの改善と取り組みの推進
方針6	沿線住民による自主的・主体的な取り組み・参画	①粟生線を応援する沿線住民の自主的・主体的な組織・団体の設立と具体的な取り組みの推進
		②無人駅のボランティア等による有人化
		③企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップの設置
		④鉄道を利活用する沿線住民の主体的な活動やイベント等を協議会が支援する仕組みの構築
方針7	駅を中心としたまちづくりの推進	①駅周辺に都市機能を集積するための施策の検討
		②駅周辺への市民生活に係るサービス施設などの立地促進・施設誘致
		③駅周辺での賑わい拠点の創出

方針 1 他交通機関に対する競争力の向上

計画の目標：輸送サービスの改善

事業	① 企画きっぷの充実と効果的なPR活動	
事業内容	沿線内外の施設やイベントと連携した、魅力ある企画きっぷの充実や新たな企画の検討を図るとともに、さらなる利用促進のために効果的なPRを行う。	
事業計画 具体的な取り組み	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 沿線内外の施設と連携した企画きっぷ等の充実 前計画期間中に発行していた沿線内外の観光地や宿泊施設等と連携した企画きっぷを継続的に発売する。また、沿線地域への働きかけも継続し、企画乗車券利用者やサポーターズクラブ会員へのサービス提供協力店舗の拡大を図る。 さらに、収支上の効果を踏まえうえで新たな企画きっぷの検討を行い、新規利用者の開拓を図る。 (施設と連携した企画切符の例) ・ 神鉄おもてなしきっぷ ・ 有馬温泉「太閤の湯クーポン」神戸電鉄版 ・ 有馬ジョイフルチケット 等</p> <p>○ 沿線のイベントと連携した企画きっぷの充実 粟生線周辺で開催されるイベントと連携した企画きっぷを発売する。また、新たな駅前イベントの検討(方針2-③、3-③)にあわせた企画きっぷの検討を行う。 (イベントと連携した企画切符の例) ・ 三木金物まつり 1day チケット 等</p>  <p>○ 自治体広報誌や新聞折り込み等を活用し、沿線内外に効果的にPR 神戸電鉄では、これまでに各種回数券および企画きっぷを発売しているが、ICカード(PiTaPa)のサービスも含め、これらの認知度を高めるため、自治体広報誌への掲載や新聞折り込み、利用促進パンフレット等を活用したPRを行う。</p>      <p>広報紙 KOBEBE      広報みき      広報おの      協議会だより      おでかけガイド</p> <p>○ 販売方法の充実・多様化 PR強化等による前計画期間中に設置した企画切符自動販売機の活用や、方針6-③で示す協力店舗の拡大に努め、フレンドショップ設置など、販売体制の充実・拡大を図る。</p>  <p>企画乗車券自動販売機</p>	
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民

事業	② 割引制度等の充実	
事業内容	潜在的な利用者層の掘り起こしのため、高齢者を対象とする割引制度を継続する。また、その他の割引制度についても、利用促進効果や実施費用等を踏まえて実現の可能性を検討する。	
事業計画	具体的な取り組み	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 割引制度等の充実</p> <p>1) 実施済みの割引制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神鉄・高速シニアパス <p>今後も増加が想定される高齢者層の潜在需要喚起と鉄道利用定着を図るため、70才以上を対象とする神鉄・神戸高速線内フリー乗車券を継続発売する。また、地域店舗や施設等の協力により、乗車券提示割引サービスの拡大を図る。 料金：7,000円（20日間フリー乗車券 1日あたり350円）</p> </li> <li>・ 三木市 福祉パス <p>三木市の福祉施策の一環として、70才以上の高齢者や身体障害者等の市民の公共交通による外出支援のため、8日間有効の神戸電鉄線内フリーチケットもしくは5,000円分の「すずらんカード」を発売する。 負担金：500円</p> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>神鉄・高速シニアパス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>三木市神戸電鉄福祉バス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>三木市すずらんカード</p> </div> </div> <p>2) 新たな割引制度の検討</p> <p>利用者ニーズや採算性を考慮のうえ、効果の見込まれる施策を検討・実施する。 (検討例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動と連携した割引制度</li> <li>・ 家族利用促進のための割引制度 (エコファミリー制度等、土・日・祝の同伴小児の無料化)</li> <li>・ コミュニティバスとの連携乗車券 等</li> </ul>
		事業期間
実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄	

事業	③ ダイヤの改善・運行本数見直し等の運行改善	
事業内容	優等列車運行による速達性の向上や利用実態に合わせた運行形態（ダイヤ、運行本数等）について検討し、現状の利便性、効率性の改善を図る。	
事業計画	<p data-bbox="424 407 619 443"><b>検討する事業</b></p> <p data-bbox="424 497 1018 533">○ 優等列車運行による速達性向上の検討 平成 24 年 5 月 19 日のダイヤ改正では、昼間時間帯に優等列車（急行）を運行（上り・下り各 11 本）することにより神戸方面への速達性を向上した（木幡以遠～新開地間 約 4 分短縮）。今後も、利用実態に合わせたダイヤ効率化による速達性向上を検討する。</p> <p data-bbox="424 689 1244 725">○ 短編成化等、輸送実態に応じた適正な運行形態の検討 利用実態に合わせた輸送効率化のため、現在の 4 両編成列車を 3 両編成に短編成化する工事を順次実施し、3 両編成運用を拡大する。 また、費用対効果を検証のうえ、利用実態に合わせた運行形態について検討する。</p> <div data-bbox="443 869 1449 1406"> <p data-bbox="766 878 1085 913">粟生線（鈴蘭台西口～粟生）平日時間帯別降車人員 &lt;2009/5/12(火)&gt;</p>  <p data-bbox="1343 1384 1442 1406">資料：神戸電鉄</p> </div> <p data-bbox="466 1429 1426 1464">粟生線の利用は朝および夕方以降に集中し、昼間時の利用は少ない</p>	
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸電鉄

<b>事業</b>		<b>④ 接客サービスの向上</b>	
<b>事業内容</b>		継続的な社員教育の実施により、利用者に満足いただける接客サービスの向上を図る。	
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>利用満足度を高めるための社員教育の実施</b> CS（顧客満足度）をテーマにした集合教育や、接客・接客対応の個別フォローアップ教育を定期的実施する。</li> <li>○ <b>ご利用・ご乗車マナーの向上啓発</b> 駅のご利用やご乗車の際のマナー向上を啓発する活動を拡充する。また、沿線の高校生よりマナー啓発ポスター、放送を募集し、優秀作品を駅・車内に掲示する。放送は主要駅で放送する。</li> </ul>	
		<p>栗生線活性化のシンボルキャラクターを活用した啓発ポスター (H22)</p> <p>沿線高校生によるマナー啓発ポスター (H24)</p>	
<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度		
<b>実行主体</b>	神戸電鉄		

<b>事業</b>		<b>⑤ 快適な駅・車内空間づくり</b>	
<b>事業内容</b>		案内施設の整備など駅施設の改善により、安心して利用しやすい駅・車内空間づくりに努める。	
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>快適な車内環境の創出</b> 車内広告枠等を展示スペースとして活用し、ギャラリートレイン、クリスマス列車など、地域の幼稚園、小・中・高等学校の参画による装飾・絵画展示企画のほか、ミュージアム・トレインなど利用者参画の写真展示企画を継続実施する。</li> </ul>	
		<b>検討する事業</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>快適性向上のための駅施設・車内空間の改善</b> 前計画期間中に整備した駅前市民トイレや待合所、キャラクターシート等の活用を図るほか、地域住民の協力による清掃・植栽活動等の駅の快適性向上策を検討する。</li> </ul>	
	三木駅前市民トイレ	栗生駅待合所	キャラクターデザインシート (H23)
<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度		
<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民		

方針 2 駅勢圏（駅の集客範囲）の拡大

計画の目標：駅アクセスの改善と駅の活性化

事業	① 駅停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信	
事業内容	パーク&ライド、キス&ライド、サイクル&ライドを促進するため、既存の駐車場や駐輪場の定期的なPRや、乗り継ぎ情報の提供を行う。	
事業計画	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ <b>パーク&amp;ライド用駅前駐車場の活用</b>          前計画期間中に整備した時間貸しのパーク&amp;ライド駐車場（5箇所56台分）を積極的にPRし、自動車と鉄道の乗り継ぎ利便性向上や自動車からの利用転換を図る。また、駅周辺商業施設と連携したパーク&amp;ライド駐車場を検討する。          （前計画期間中に新たに整備した駐車場）          小野（10台）、小野第2（8台）、三木（20台）、          広野ゴルフ場（10台）、押部谷（8台）</p> <p>○ <b>駐輪施設の活用</b>          これまでに整備した駐輪施設を積極的にPRし、利用台数の増加を図る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>○ <b>到着時刻の表示された神鉄運行時刻表の作成</b></p> <p>○ <b>インターネット等を使用した乗り継ぎ情報等の提供サービス</b>          ダイヤ変更や施設整備等の状況に応じて、協議会の発行誌（協議会だよりやご利用ガイド）、駅ナビやホームページ等を活用し、到着時刻の分かる時刻表やバスの乗り継ぎ情報のほか、トイレや商業施設、駐車・駐輪場、バス停などの駅周辺施設の情報提供を行い、鉄道とアクセス交通手段との乗継利便性を向上する。</p>	
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

事業	② バスとの効果的な接続	
事業内容	<p>駅へのアクセスバスの改善やバスダイヤの調整により、アクセス性の向上を図る。また、駅情報、バスおよび列車の運行情報、駐車場情報、自転車・バイクの駐輪場情報などを継続して発信することにより、誰もが使いやすい駅にする。</p>	
事業計画	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 駅でのバス停案内およびバス時刻表の掲示</p> <p>鉄道とバスの乗り継ぎをしやすくするため、駅でのバス停案内や時刻表の掲示を行う。</p> <p><b>関東バス・電車乗り継ぎマップ</b></p>  <p>この地図は乗り換えルートをわかりやすくするために一部省略して表記しております。また、走行経路・位置関係等が表記されているものと実線で異なる箇所がございますのであらかじめご了承の上ご利用下さいませようお願い申し上げます。なお、一部のバス停と駅については徒歩（5分程度）での連絡となりますのでご了承下さい。（当社総合路線案内図とあわせてご活用下さいませとより便利です。）この地図に関するお問い合わせは、運輸部（営業担当）03-3371-7116 まで 平成22年2月1日現在</p> <p>あなたの笑顔運びたい <b>関東バス株式会社</b></p> <p>具体的な取り組み</p> <p><b>検討する事業</b></p> <p>○ 電車到着時刻と整合を図るバスのダイヤの調整</p> <p>鉄道とバスの連絡を強化するため、鉄道と連動したバスダイヤを検討する。</p> <p>○ 駅へのアクセスバスの検討（路線の新設、既設路線の再編等）</p> <p>駅と住宅地や工場を連絡するアクセスバスの導入可能性を検討する。また、新たな駅前バス停設置の可能性を検討するほか、バス停設置にあわせて利用しやすい駅への動線を検討する。</p> <p>○ 鉄道と並行在来バス路線との役割分担調整</p> <p>鉄道と並行在来バス路線とが、競合することなくお互いに補完しあえるように、運行時間等の調整を検討する。</p>	
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

<b>事業</b>		<b>③ 駅前の特徴あるイベントの開催</b>	
<b>事業内容</b>		駅前における特徴あるイベントの開催により、駅の活性化と鉄道の利用促進を図る。	
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b>	<p>○ 既存の駅前イベントのPR</p> <p>駅前で開催されているイベントについて神鉄沿線にPRする。また、イベントの情報発信とあわせて粟生線の利用が便利でお得なことをPRする。 (前計画期間中に開催した主なイベント) キャラクター列車出発式、朝市、ラッピング列車お披露目式、高校生レストラン 等</p>
		<b>検討する事業</b>	<p>○ 新たな駅前イベントの企画・検討 (他地域でのイベント例)</p>
			
		いわき駅前のイベント例	つくば市研究学園駅前のイベント例
<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度		
<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄		

<b>事業</b>		<b>④ 駅の空きスペースの活用</b>	
<b>事業内容</b>		駅の空きスペースを活用し、駅の賑わいを創出する活性化策を展開する。	
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>検討する事業</b>	<p>○ 駅の空きスペースを活かした活性化策の展開</p> <p>地域の主体的な協力の下、駅の空きスペースを有効活用し、鉄道利用と結びつくような駅の賑わい創出や地域コミュニケーションの場として活用する施設や企画を検討する。 (駅の空きスペース有効活用の例) 例) ・特設物産品販売屋台の出店 ・フレンドショップ ・商業施設誘致 ・ボランティアスペース ・野菜売り場 等</p>
			
		駅の賑わい創出の例	
		<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民		

方針3 定期利用者と交流人口の拡大

計画の目標：定期利用者の増加と新規利用者の開拓

事業		① 沿線立地企業等への粟生線通勤・通学利用のPR
事業内容		沿線に立地する企業等へ積極的な粟生線の通勤・通学利用を働きかけ、鉄道利用を促進する。 ※モビリティ・マネジメントに関連する事項は後述（方針4-①）
事業計画	具体的な取り組み	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 各種定期券の設定（粟生線通勤 Come Back 補助制度） 他の交通手段からの通勤定期利用への転換促進のため、粟生線区間の6ヶ月通勤定期運賃の半額を協議会が支援する制度を導入する。 本連携計画の目標達成のための主要施策として実施し、沿線地域や企業への直接訪問も含め、積極的なPRにより300人の目標利用者確保を図る。</p> <p>○ 携帯時刻表の作成・配布によるPR 携帯できる時刻表を作成し配布する。また、現在ホームページでアップされている時刻表のPRを行う。</p>
	事業期間	平成25～28年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

事業		② 小・中学校等への粟生線利用の促進と支援 (1/2)
事業内容		小・中学校等の教育機関に対して、校外学習や社会見学等での粟生線利用の促進を図れるよう、働きかけおよび利用時のサポート等を行う。
事業計画	具体的な取り組み	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 小中学生の校外学習等の企画・実施サポート 沿線内外での校外学習や社会見学等を企画し、小・中学校等の教育機関に対して、学校行事での鉄道利用を働きかける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>農業体験（粟生駅）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>三木山森林公園自然環境学習</p> </div> </div> <p>○ 小中学生の校外学習等を推奨するための補助制度の構築 新規利用開拓のため、学校行事での粟生線利用の際に、活動費や交通費を支援する補助制度を構築する。</p> <p>○ 小学生、園児を対象とした鉄道に親しむ体験・参画企画の実施 小学生や園児を対象とした車両工場見学会や、トレインフェスティバルにおいて、鉄道運行を支える施設や業務を見学・体験しながら学習する企画を実施し、鉄道への理解と利用促進につなげていく。</p>
	事業期間	平成25～28年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄



<b>事業</b>		② 小・中学校等への粟生線利用の促進と支援 (2/2)
<b>事業内容</b>		小・中学校等の教育機関に対して、校外学習や社会見学等での粟生線利用の促進が図れるよう、働きかけおよび利用時のサポート等を行う。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b> ○ ギャラリートレイン等の拡充 車内に幼稚園児や小中学生、高校生の作成した絵画や作品を出展し、ギャラリートレイン、ミュージアムトレイン、クリスマス列車などの特別仕様列車として運行する。さらに、列車の運行状況を情報提供することで、父兄等の利用喚起を図る。  ギャラリートレイン
	<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

<b>事業</b>		③ 地域間の各イベントとの連携強化
<b>事業内容</b>		沿線地域で開催される各イベントの地域間の連携を強化する。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b> ○ 沿線地域イベントと連携した利用啓発・利用促進活動の実施 三木金物まつりなど、一定の増収効果が期待できる大規模イベントでの企画きっぷの発売や、沿線各地の地元まつりやイベントに、粟生線シンボルキャラクターの着ぐるみやミニトレインを活用した利用啓発・利用促進PR活動を継続実施する。 ○ 神鉄ハイキングのPR拡大 神鉄が実施しているハイキングのPRを沿線内外で強化することにより、粟生線へのハイキング利用の拡大を図る。また、ハイカー層へサポーターズくらぶ入会等の粟生線支援を呼び掛けるなど、利用者層の裾野拡大を図る。 ○ 他の沿線地域活性化協議会イベントとの共催 加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会で開催している各種イベントとの連携・共催を拡大し、相互に、より広範囲での利用促進効果を実現する。 ○ 粟生線を利用したイベント参加者への特典付与 サポーターズくらぶ会員向けの参加指定イベントを毎月設定し、参加回数に応じてノベルティを配布する等の特典を付与する。また、粟生線周辺で開催されている各種イベントと連携し、リピーター利用の拡大や潜在利用の掘り起こしを図る。 <b>検討する事業</b> ○ スポーツイベントとの連携 粟生線周辺で開催されるスポーツイベント（ゴルフ等）と連携した割引乗車券の発売等を検討する。
	<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、兵庫県

<b>事業</b>		<b>④ 沿線地域における観光資源の魅力的な活用</b>
<b>事業内容</b>		沿線地域における観光資源の発掘、魅力の向上やPRにより交流人口を増加させ、粟生線沿線以外からの利用促進に繋げていく。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<p><b>実施する事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>新たな観光資源・観光拠点の整備、開発</b> 地域ボランティアや学生等の強さも仰ぎながら、新たな観光資源・観光拠点の整備・発掘を行い、鉄道を利用した新たな旅客誘致施策を企画・実施し、観光客の増加を促進する。</li> <li>○ <b>沿線の施設や観光情報の積極的な情報発信・充実（観光部局、商工会議所等との連携含む）</b> 沿線内の施設や観光地等の情報を協議会発行誌やホームページの活用、関係部局との連携により効果的にPRを行う。</li> <li>○ <b>観光マップの駅等での配布</b> すでに作成されている観光マップを駅等で配布し、観光客の増加を促進する。</li> </ul>
		 <p>三木山森林公園 (三木山森林公園HPより)</p>
		 <p>神戸ワイン工場 (神戸ワイン工場園HPより)</p>
	<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

<b>事業</b>		<b>⑤ 魅力的な車窓からの景観づくり</b>	
<b>事業内容</b>		花をテーマにした快適で魅力的な車窓からの景観づくり（フラワーライン計画）に努め、粟生線のイメージ向上と、景観スポットでの地域交流等による鉄道利用の促進を検討する。	
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<p><b>検討する事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>沿線での植樹・植栽等の推進による粟生線のフラワーライン化</b> これまでに整備した沿線での植樹・植栽等を継続的にPRする。また、沿線住民の協力による駅周辺での植栽美化活動の実施を検討する。</li> <li>○ <b>車窓からのフォトコンテストの実施</b> 車窓からの景観を題材としたフォトコンテストの実施を検討する。</li> </ul>	
		<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
		<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民

事業	⑥ 鉄道に関するイベントの開催	
事業内容	粟生線沿線や鉄道の魅力を発信するイベントを開催し、沿線内外の鉄道利用の促進を図る。	
事業計画 具体的な 取り組み	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 神鉄トレインフェスティバルの拡大実施          神鉄トレインフェスティバルは経年開催されているが、その利用者は増加傾向にあることから、さらに地域参画要素の充実を図りながら継続開催するとともに、実施の季節や場所の拡大も検討していく。          また、三木市、小野市方面からの来場PRも強化していく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="481 618 858 887">  </div> <div data-bbox="948 618 1353 887">  </div> </div> <p>神鉄トレインフェスティバル案内ポスター      神鉄トレインフェスティバル2012</p> <p>○ ミステリートレインの拡大実施          粟生線沿線施設等と絡めた行程設定や、イベントの中で利用啓発教材等を活用したモビリティ・マネジメント教育を実施するなど、粟生線への理解・関心を高めるための企画内容の拡大、充実を図る。</p> <p>○ ラッピング列車を活用した沿線の魅力・特色を発信するイベント列車の運行          粟生線活性化のシンボル列車であるラッピング列車を有効に活用して、例えば、お座敷列車や特産品販売等、地域の愛着創出や観光振興に寄与するような目玉となるイベント列車の企画を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="440 1361 791 1581">  </div> <div data-bbox="833 1361 1078 1581">  </div> <div data-bbox="1126 1361 1455 1581">  </div> </div> <p>七夕列車      クリスマス列車      ライブトレイン</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>ラッピング列車</p> </div>	
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民、兵庫県

事業	⑦ ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信	
事業内容	イベントやホームページ等による広報を通じて、粟生線の魅力を発信していく。	
事業計画	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ おでかけガイドの充実          既存のお出かけガイドを充実し、新聞や自治体広報への折り込みも有効に活用し、配布場所を拡大する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="539 546 868 999"> <p>おでかけガイド (H23)</p> </div> <div data-bbox="970 539 1299 999"> <p>粟生線ご利用ガイド (H24)</p> </div> </div> <p>○ 神戸電鉄粟生線活性化協議会ホームページリニューアルによる沿線情報、イベント情報、観光資源情報等の充実          既存の活性化ホームページをリニューアルし、様々な情報を掲載し、内容を充実させることで、粟生線の魅力を効果的に発信する。  <a href="http://www.shintetsu.co.jp/aosen_kasseika/">http://www.shintetsu.co.jp/aosen_kasseika/</a></p>	
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

計画の目標：公共交通利用意識の向上

<p>事業</p>	<p>① 企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施 (1/2)</p>
<p>事業内容</p>	<p>沿線に立地する企業および学校、転入者等に対して公共交通の利用意識を向上するためにモビリティ・マネジメントを実施し、自発的な乗生線の優先利用行動を喚起する。 モビリティ・マネジメント：ひとり一人の行動や意識を変化させ、自らの自発的な意思によって、公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に利用する状態へと変えていく交通施策</p>
<p>事業計画</p> <p>具体的な取り組み</p>	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 沿線住民や企業等に対する鉄道利用への協力要請 沿線住民や企業に対し、TFP（トラベルフィードバックプログラム）等を継続的に実施する等、鉄道利用促進の働きかけを行う。 （TFPとは“トラベル・フィードバック・プログラム”の略で、習慣的になっている過度なマイカーの利用を見直し、コミュニケーションを通じながら、「かしこいクルマの使い方」を考え、実践していくプログラムであり、モビリティ・マネジメントの手法の一つ）</p> <p>○ 小学生、園児を対象とした公共交通学習の実施 小学生、園児を対象に、少子高齢化や環境問題等から公共交通の必要性を説明したプログラムを作成し、ボランティア等による出張教育を開催する。</p> <div data-bbox="443 1070 1423 1288"> </div> <p>公共交通学習に関する紙芝居（実施例）</p> <p>○ 転入者に対する公共交通利用案内マップの配布 転入者に対し、交通手段を固定してしまう前に、おでかけガイドや時刻表を、住民課の窓口等で配布する。</p> <p>○ 公共交通の利用動機付けパンフレットの作成と配布 ダイエットや地球環境への負荷軽減、公共交通の必要性等を明確にした、動機付け冊子やパンフレット、ポスター等を作成し、沿線の住民や企業等に配布する。また、広く効果的な情報発信のために、新聞や自治体広報への折り込みを活用するほか、新聞広告等の方法も検討していく。</p> <div data-bbox="689 1662 896 1953"> </div> <p>動機付け冊子（H23）</p> <div data-bbox="976 1662 1184 1930"> </div> <p>動機付け冊子（H24）</p>
<p>事業期間</p>	<p>平成 25～28 年度</p>
<p>実行主体</p>	<p>神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄</p>

<b>事業</b>		① 企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施 (2/2)
<b>事業内容</b>		沿線に立地する企業および学校、転入者等に対して公共交通の利用意識を向上するためにモビリティ・マネジメントを実施し、自発的な粟生線の優先利用行動を喚起する。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b> ○ 毎月1回のノーマイカーデーへの参加企業の拡大 沿線企業に対し、粟生線の存続や交通渋滞の緩和、環境への負荷軽減を目的として毎月1回のノーマイカーデーの実施を働きかける。 また、ノーマイカーデーの実施を促進するため、協議会補助制度の検討を行う。
	<b>事業期間</b>	平成25～28年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

<b>事業</b>		② 粟生線キャラクター等による活性化のPR
<b>事業内容</b>		粟生線が地域にとって身近な存在で、持続して親しまれていくよう、粟生線のキャラクターやロゴマーク、ラッピング電車等により、活性化をPRする。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b> ○ 粟生線キャラクターを活用したPR 小野高校生と小野東小学校生の協力により提案されたキャラクター（しんちゃん、てつくん）を、粟生線活性化策のPRに活用してきたが、沿線住民の認知度も高まっているため、今後も統一シンボルイメージとして効果的なPR展開を図る。また、利用促進や利用啓発活動の効果的な推進のため、PRキャンペーン時やアンケート調査時等に配布する啓発グッズにもキャラクターデザインを活用する。
	<b>事業期間</b>	平成25～28年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

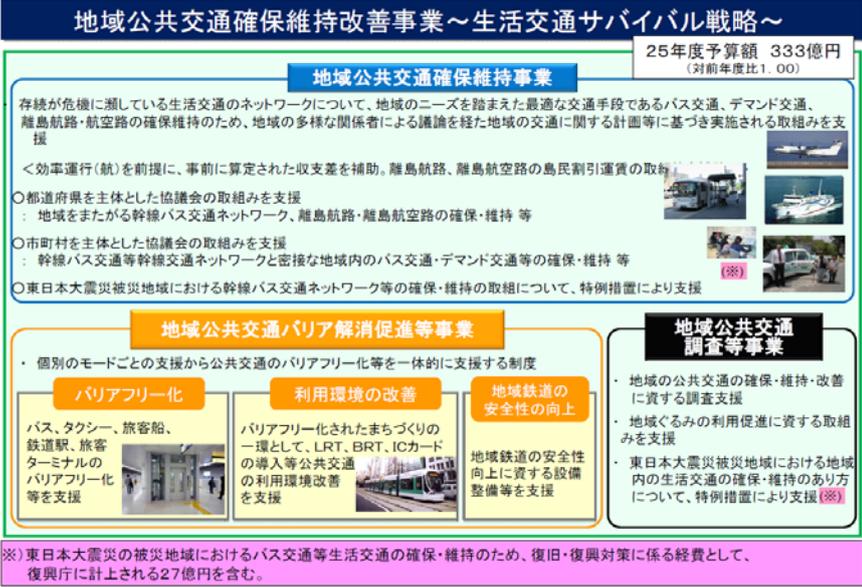


キャラクターグッズ

施 策		③ 沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動
事業内容		行政等の職員が率先して、粟生線等の公共交通機関を利用するリーダーとなってアクションを起こす。
事業計画	具体的な取り組み	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 県・市職員等による通勤・出張時等の公共交通率先利用の推進  市民の粟生線の利用促進を図るためには、まず行政側からその姿勢を示すことが求められるため、職員の粟生線利用を促す取り組みを継続する。  例) ・通勤時の粟生線利用への誘導  ・職員向けTFPの実施  (TFPとは“トラベル・フィードバック・プログラム”の略で、習慣的になっている過度なマイカーの利用を見直し、コミュニケーションを通じながら、「かしこいクルマの使い方」を考え、実践していくプログラムであり、モビリティ・マネジメントの手法の一つ)</p> <p>○ 県・市職員等による毎月1回のノーマイカーデーの設定・実施  企業へノーマイカーデーへの協力を呼びかけるためには、まず行政側からその姿勢を示すことが求められるため、職員のノーマイカーデーでの粟生線利用を促す。</p>
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、兵庫県、国

方針5 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

計画の目標：安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

<b>事業</b>		① 国庫補助制度も活用した鉄道施設の効果的な更新等
<b>事業内容</b>		国庫補助制度も活用しながら、鉄道施設の効果的な更新等を図る。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 施設の更新・改良による安全性の向上</p> <p>補助制度を最大限活用し、ATS（自動列車停止装置）改良や車両制御装置改良、コンクリート枕木化、橋梁耐震化、レール交換等のハード整備を進めるとともに、モビリティ・マネジメント等のソフト施策を展開する。</p>  <p>25年度予算額 333億円 (対前年度比1.00)</p> <p><b>地域公共交通確保維持事業</b></p> <p>存続が危機に瀕している生活交通のネットワークについて、地域のニーズを踏まえた最適な交通手段であるバス交通、デマンド交通、離島航路・航空路の確保維持のため、地域の多様な関係者による議論を経た地域の交通に関する計画等に基づき実施される取組を支援</p> <p>&lt;効率運行(航)を前提に、事前に算定された収支差を補助。離島航路、離島航空路の島民割引運賃の取組&gt;</p> <p>○都道府県を主体とした協議会の取組を支援 ： 地域をまたがる幹線バス交通ネットワーク、離島航路・離島航空路の確保・維持 等</p> <p>○市町村を主体とした協議会の取組を支援 ： 幹線バス交通等幹線交通ネットワークと密接な地域内のバス交通・デマンド交通等の確保・維持 等</p> <p>○東日本大震災被災地域における幹線バス交通ネットワーク等の確保・維持の取組について、特例措置により支援</p> <p><b>地域公共交通バリア解消促進等事業</b></p> <p>・ 個別のモードごとの支援から公共交通のバリアフリー化等を一体的に支援する制度</p> <p><b>バリアフリー化</b> バス、タクシー、旅客船、鉄道駅、旅客ターミナルのバリアフリー化等を支援</p> <p><b>利用環境の改善</b> バリアフリー化されたまちづくりの一環として、LRT、BRT、ICカードの導入等公共交通の利用環境改善を支援</p> <p><b>地域鉄道の安全性の向上</b> 地域鉄道の安全性向上に資する設備整備等を支援</p> <p><b>地域公共交通調査等事業</b></p> <p>・ 地域の公共交通の確保・維持・改善に資する調査支援 ・ 地域ぐるみの利用促進に資する取組を支援 ・ 東日本大震災被災地域における地域内の生活交通の確保・維持のあり方について、特例措置により支援(※)</p> <p>※) 東日本大震災の被災地域におけるバス交通等生活交通の確保・維持のため、復旧・復興対策に係る経費として、復興庁に計上される27億円を含む。</p> <p>国土交通省資料</p>
	<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、兵庫県、国

<b>事業</b>		② 利用者動向・ニーズに応じた輸送サービスへの改善と取り組みの推進
<b>事業内容</b>		的確に利用者ニーズを把握し、これに応じた輸送サービスへの改善を図るとともに、利用者に事業を評価してもらうしくみづくりを行うことでPDCAサイクルに従った事業展開を図る。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ 利用者ニーズを把握するためのアンケート調査等の実施</p> <p>トレインフェスティバルやシンポジウム等の各種イベント参加者や、シニアパス、平日昼間・土休日お得きっぷ等の企画乗車券購入者へのアンケート調査のほか、モビリティ・マネジメントの一環として沿線住民・企業・学校等へのアンケート調査（参照 方針4-①）を実施し、利用者ニーズの把握に努めるとともに、今後の活性化利用促進に向けた取り組みの参考とする。</p>
	<b>事業期間</b>	平成 25～28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民

方針 6

沿線住民との協働と沿線住民の主体的な取り組み・参画

計画の目標：沿線住民による自主的・主体的な取り組み・参画

事業	<p>① 粟生線を応援する沿線住民の自主的・主体的な組織・団体の設立と具体的な取り組みの推進</p>	
事業内容	<p>沿線地域住民の意見や要望等の把握に努め、粟生線の活性化や利用促進の協力体制を構築する。また、沿線住民の主体的な行動を喚起するため、意識啓発を行うと共に、沿線住民の自主的・主体的な組織・団体の設立と具体的な取り組みをサポートする。</p>	
事業計画	<p><b>実施する事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 沿線住民や関係団体等とのコミュニケーション強化                     <p>沿線住民や関係団体等との情報交換を強化し、粟生線の実情について理解を深めるとともに、活性化に向けた地域の主体的な活動を呼びかける。一方で、沿線住民の意見や要望等の把握に努め、相互理解のもとに連携を図っていく。</p> </li> <li>○ 沿線の高校・大学と連携した利用促進の企画・実施サポート                     <p>前計画でも、沿線高校生や大学生による、様々な制作活動や研究活動のほか、イベントへの参画など、活性化事業への協力・支援を得たが、さらに連携を強化し、充実した取り組みを展開していく。</p> </li> <li>○ 粟生線サポーターズくらぶ会員の拡充                     <p>粟生線の活性化に協力いただけるサポーターを組織化し、住民主体の取り組みの活動母体として、協議会だよりや自治体広報誌のほか会員間のクチコミ等でのPRを強化し、地域住民を中心にくらぶ会員の拡充（目標会員数：5,000人）を目指す。</p> </li> <li>○ 粟生線サポーターズくらぶによる積極的な利用促進活動の推進                     <p>粟生線サポーターズくらぶ会員による独自の活動をサポートし、継続的な鉄道利用や利用啓発のための取り組みを推進する。</p> <p>例)・駅前花壇の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺の清掃活動</li> <li>・会員同士の意見交換会</li> <li>・各種イベントの企画・運営 等</li> </ul> <p>(ミュージアムトレインの活用や、月1回乗車運動の展開など)</p> </li> <li>○ 沿線住民による鉄道利用の呼びかけ・働きかけ・啓発の推進                     <p>自治会や町内会などの組織とも連携し、住民同士による鉄道利用の呼びかけ等を通じて、沿線住民による主体的な鉄道利用を喚起し、地域全体で粟生線存続のための機運を盛り上げ、継続的な鉄道利用の取り組みを推進する。</p> </li> </ul> <p><b>検討する事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域住民による駅や沿線の美化活動やPR等、鉄道愛護意識の醸成                     <p>地域の身近な駅として地域住民等による清掃活動、花いっぱい運動を実施する。また、サポーターやボランティアによる駅の美化運動を行い、来たくなる駅にすることで駅の活性化を図る。</p> <p>さらに、自治会の会議やイベント開催時等に神鉄を積極的に活用する。</p> </li> <li>○ 神戸電鉄と地域との交流を促進する社会貢献活動の検討                     <p>トレインフェスティバル等のイベントや、沿線小・中学校への出張授業等、地域との交流を促進するための社会貢献活動を検討・実施する。</p> </li> </ul>	
	事業期間	平成 25～平成 28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民

<b>事業</b>		<b>② 無人駅のボランティア等による有人化</b>
<b>事業内容</b>		無人駅におけるボランティア活動での案内や清掃等による有人化により、地域の財産となる駅にしていく。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<p><b>検討する事業</b></p> <p>○ ボランティア駅長等による無人駅の活性化 住民による駅の美化活動や利用促進PR等の推進者としてのボランティア駅長を検討し、人が集まる駅にすることで無人駅の活性化を図る。</p>  <p style="text-align: center;">北条鉄道のボランティア駅長</p>
	<b>事業期間</b>	平成 25～平成 28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民

<b>事業</b>		<b>③ 企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップの設置</b>
<b>事業内容</b>		企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップの設置、粟生線サポーターズくらぶ加盟店の拡充により、地域との協働体制を構築する。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<p><b>実施する事業</b></p> <p>○ PR協力等によりフレンドショップを拡充 鉄道駅の周辺にある商業施設に協力していただき、神戸電鉄のフレンドショップとして、粟生線支援のため、以下のような活動をしてもらう。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画きっぷ、割引きっぷの販売</li> <li>・ 利用啓発PRポスター・チラシ等の設置</li> <li>・ アンケートの設置 等</li> </ul> </p> <p>○ 粟生線の利用促進を応援する粟生線サポーターズくらぶ加盟店の拡充 粟生線サポーターズくらぶの活動に協力いただける加盟店を広く募集し、くらぶ会員や企画乗車券利用者に対して割引特典を付与すると共に、活性化の取り組みの情報発信拠点とする。</p>
	<b>事業期間</b>	平成 25～平成 28 年度
	<b>実行主体</b>	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄、沿線住民

<b>事業</b>		④ 鉄道を活用する沿線住民の主体的な活動やイベント等を協議会が支援する仕組みの構築
<b>事業内容</b>		地域や個人の鉄道利用を推奨するため既存の制度をPRすると共に新たな支援制度を検討する。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b> ○ 沿線住民による活性化活動等に対する既存の公的補助制度の活用 沿線住民による粟生線活性化に資する活動に対して、既存の補助制度を活用して支援を行い、地域住民の継続的な鉄道利用を促進する。 例) 兵庫県神戸県民局 乗って残そう! 「粟生線」活性化応援事業 (事業概要) 粟生線を利用した地域間交流の取り組みや沿線地域での創意工夫による取り組みに対して経費の一部を助成する事業。 (補助率) 助成対象経費の 10/10
		<b>検討する事業</b> ○ 粟生線活性化に係るボランティアの登録 (協議会に登録) 粟生線活性化のために資する活動を実施する主体としてのボランティア募集を検討する (協議会に登録)。 例) ボランティアポイント制度の導入 ボランティア活動に対してポイントを付与し、ポイント数に応じて切符や景品を付与する。 ○ 沿線住民の外出を支援する助成制度等の検討 高齢者や身障者等を対象とした助成制度等について検討を行う。 例) 運転免許証の自主返納による鉄道利用を推奨するための補助制度の検討 ○ 沿線住民による活性化活動等に対する協議会補助制度の検討 沿線住民が主体となり行う利用促進活動に対する協議会補助制度を検討する。
		<b>事業期間</b> 平成 25～平成 28 年度 <b>実行主体</b> 神戸市、三木市、小野市、兵庫県、神戸電鉄、沿線住民

方針7 駅を中心としたまちづくりの推進

計画の目標：駅周辺への都市機能等の集約と駅周辺の賑わい作り

事業		① 駅周辺に都市機能を集積するための施策の検討
事業内容		駅周辺に都市機能を集積するための施策を検討することにより、駅周辺人口の増加を図る。
事業計画	具体的な取り組み	<p>検討する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域特性に応じた住宅地・事業用地の形成 地域特性に応じた住宅地の整備や事業用地の形成による駅周辺への人口集積策を検討する。</li> </ul>
	事業期間	平成 25～平成 28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市

事業		② 駅周辺への市民生活に係るサービス施設などの立地促進・施設誘致
事業内容		駅周辺でのサービス施設の誘致・集約により、駅周辺人口の増加を図る。
事業計画	具体的な取り組み	<p>検討する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 駅周辺への市民サービス施設（行政出先機関・病院・保育園・高齢者デーサービス施設等・商業施設など）の誘致・集約化の検討 駅周辺へ行政の出先機関や病院、保育園、高齢者デーサービス施設、商業施設等の誘致・集約化の検討を行う。</li> <li>○ 駅と行政サービス施設等との複合施設化の検討（駅舎の建て替え含む） 駅舎の空きスペース活用など、駅と行政サービス施設とが一体となった複合施設化の検討を行う。</li> <li>○ 駅周辺の道路や歩行者空間の改善 駅周辺のバリアフリー化など、駅周辺の道路や歩行者空間の改善等を検討する。</li> <li>○ 「まちづくり交付金」や「社会資本整備総合交付金」などの国庫補助制度の活用 駅周辺への市民サービス施設の集約化、複合施設化、アクセス改善にあたって、既存の国庫補助制度の活用を含めた検討を行う。</li> </ul>
	事業期間	平成 25～28 年度
	実行主体	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

<b>事業</b>		<b>③ 駅周辺での賑わい拠点の創出</b>
<b>事業内容</b>		駅周辺の空き地や店舗の有効活用、既存の店舗や商店街との連携により、賑わい拠点の創出を図る。
<b>事業計画</b>	<b>具体的な取り組み</b>	<b>実施する事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 駅周辺の商店街の活性化 既存制度等を活用し、駅周辺の商店街の活性化による駅前の賑わい創出を図る。</li> <li>○ 駅周辺および沿線の店舗等とのタイアップによる活性化 駅前及び沿線の店舗とタイアップし、企画切符の発行・発売やサポーターズくらぶ加盟店への加入促進を行い、駅周辺の活性化を図る。</li> </ul>
		<b>検討する事業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 駅周辺の空き地・空き店舗の活用検討 駅周辺の空き地・空き店舗を有効活用し、駅周辺の賑わいを創出する施設等の設置を検討する。 例)・商業施設等 ・フレンドショップ ・サポーターズくらぶ関連施設 等</li> </ul>
		<b>事業期間</b> 平成 25～平成 28 年度 <b>実行主体</b> 神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄

## 5-4 事業の実行主体とスケジュール

### (1) 全体事業計画のスケジュール

以下項目別に概ねの検討・実施期間を記載。

事業の名称	平成25年度				平成26年度				平成27年度				平成28年度			
	4月	9月	12月	3月												
<方針1-①, 1-②> 企画きっぷ、割引制度等の充実と効果的なPR活動			実施													
<方針1-④, 1-⑤> 接客サービスの向上および利用しやすい駅・快適な駅づくり			検討・実施													
<方針2-①> 駐停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信			実施													
<方針2-②> バスとの効果的な接続			検討・実施													
<方針2-③, 3-③, 3-⑥> イベントの開催及び地域間イベントとの連携			実施													
<方針2-④> 駅の空きスペースの活用			検討・実施													
<方針3-①, 4-①, ②, 5-②> 利用実態の把握、企業や学校等に対するモバイル・マネジメント等の実施			実施													
<方針3-②> 小・中学校等への粟生線利用の促進と支援			実施													
<方針3-④> 沿線地域における観光資源の魅力的な活用			実施													
<方針3-⑤> 魅力的な車窓からの景観づくり			実施													
<方針3-⑦> ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信			実施													
<方針4-③> 沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動			実施													
<方針6> 粟生線サポーターズクラブを中心とする粟生線を応援する沿線住民の自主的・主体的な取り組みの推進			検討・実施				実施				実施				実施	
<方針7> 駅周辺への都市機能の集約と賑わい拠点の創出			検討・実施													

(2) 事業計画の概要と実行主体

事業の名称	事業の概要(目標)	実行主体
<方針1-①、1-②> 企画きっぷ、割引制度等の充実と効果的なPR活動	割引制度の充実と自治体広報誌や新聞折り込みを活用したPRを実施	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)、沿線住民
<方針1-④、1-⑤> 接客サービスの向上および利用しやすい駅・快適な駅づくり	マナー啓発ポスター制作や待合スペース等の夜間照明増設、時計設置	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)、沿線住民
<方針2-①> 駐停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信	既存のパーク&ライド駐車場、駐輪場の活用および駅周辺施設や乗り継ぎ等の情報提供	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)
<方針2-②> バスとの効果的な接続	駅でのバス停案内および時刻表の掲示等	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)
<方針2-③、3-③、3-⑥> イベントの開催及び地域間イベントとの連携	駅から沿線集客イベントへの案内表示の充実や誘致PRの実施	神戸市、三木市、小野市、兵庫県、神戸電鉄(株)、沿線住民
<方針2-④> 駅の空きスペースの活用		神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)、沿線住民
<方針3-①、4-①、②、5-②> 利用実態の把握、企業や学校等に対するモビリティマネジメント等の実施	公共交通利用促進のためのパンフレット・啓発グッズ制作及び継続的な利用啓発	神戸市、三木市、小野市、兵庫県、神戸電鉄(株)
<方針3-②> 小中学校等への粟生線利用の促進と支援	小中学校の校外学習等の企画・実施のサポートやギャラリートレインの拡充	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)
<方針3-④> 沿線地域における観光資源の魅力的な活用	沿線観光マップ・パンフレット等の制作および沿線の施設とタイアップした積極的な情報発信	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)
<方針3-⑤> 魅力的な車窓からの景観づくり	前計画期間中に整備した沿線の植樹・植栽等の活用および車窓からのフォトコンテストの実施	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)、沿線住民
<方針3-⑦> ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信	PRパンフレットや協議会HPによる情報発信	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)
<方針4-③> 沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動	自治体職員への啓発活動の実施	神戸市、三木市、小野市、兵庫県、国
<方針6> 粟生線サポーターズクラブを中心とする粟生線を応援する沿線住民の自主的・主体的な取り組みの推進	サポーターズクラブ会員の拡充およびクラブ会員による積極的な利用促進活動の推進	神戸市、三木市、小野市、兵庫県、神戸電鉄(株)、沿線住民
<方針7> 駅周辺への都市機能の集約と賑わい拠点の創出	駅周辺の土地利用見直しや商店街の活性化、駅周辺および沿線の店舗等とのタイアップによる活性化	神戸市、三木市、小野市、神戸電鉄(株)

## 5-5 次期計画目標達成の必要性について

これまでに記載のとおり、現在の粟生線利用者数は、前計画における利用促進の取り組みによる一定の効果は見られるものの、当初の計画目標を大きく下回っており、前計画策定時に比べて粟生線の運営状況はさらに深刻なものとなっている。

そのような現実を踏まえて、平成24年度より、神戸電鉄による経営改善努力と、神戸電鉄及び沿線3市を中心とした利用促進の継続を前提に、新たに県と沿線3市による5年間の支援を実施することになった。この支援では、旅客運輸収入の減少を毎年0.7%に留め、神戸電鉄全線での鉄道事業の黒字化を目標としている。その目標達成に向けて本連携計画では、**粟生線利用者の目標を700万人台と設定している。**

平成24年度には、神戸電鉄の経営改善の一環として、運転本数の削減などによるダイヤの効率化や利用の少ない駅でのトイレ等の施設縮減が行われた。これ以上のサービス水準の低下は、利用者離れに一層の拍車をかけることになると考えられ、それが旅客運輸収入の減少につながり、悪循環に陥ることになりかねない。

このため、「沿線地域にとって重要な役割を担っている」**粟生線を将来にわたり存続させていくために、「乗って残そう！」**という思いを形にするため、「沿線住民等」、「交通事業者」、「自治体」の3者が相互に協力し、さらなる利用者の増加につなげ、計画目標を達成することで粟生線の収支を改善することが必要である。

ただし、700万人台の目標は現状の利用者数670万人程度の水準からは簡単に実現できる目標ではない。このため、前計画からの継続事業の効果をさらに高めていくとともに、特に、前計画では十分な取り組みに至らなかった、恒常的な利用者層としての「通勤定期利用者の拡大」施策、粟生線サポーターズくらぶ等を通じた「沿線地域が主体となった利用促進・乗車運動」の展開、中長期的な視点も含めた「駅中心のまちづくり」を検討しながら、700万人台の利用目標を達成する必要がある。

## 5-6 推進体制とめざす姿

これまで粟生線の沿線住民等と交通事業者、行政が協力して活性化の取り組みを進めてきたが、前出の基本方針でも述べたとおり、粟生線の維持・存続のためには、更なる沿線住民等の主体的な取り組み、参画が重要となっている。

そのため、本計画の推進にあたっては、選定した事業を着実に実施しながら、随時、その事業の効果や、以下の表に示す役割分担の下事業が実施されているかについて検証し、事業の計画・検討・見直しを行っていく。

そして、将来的には、沿線住民等の主体的な取り組み、参画により、粟生線が自立的に持続可能な体制・状態となることをめざし、本計画の目標である700万人台の達成に向けて取り組んでいく。

表 5-2 関係主体の役割

主体	構成者	役割
沿線住民等	住民、企業、従業員、学校など	粟生線をはじめとした公共交通の直接の利用者として、本計画の具体化に向けた <b>主体的・積極的な参画</b> 。
交通事業者	神戸電鉄	交通サービスの提供者として、沿線住民等および行政との <b>連携を図り</b> 、本計画の <b>確実な推進に向けた積極的な事業の展開</b> 。
行政	神戸市、三木市、小野市、兵庫県、国	行政として沿線住民等および交通事業者と <b>一体になって実施に取り組む</b> 。

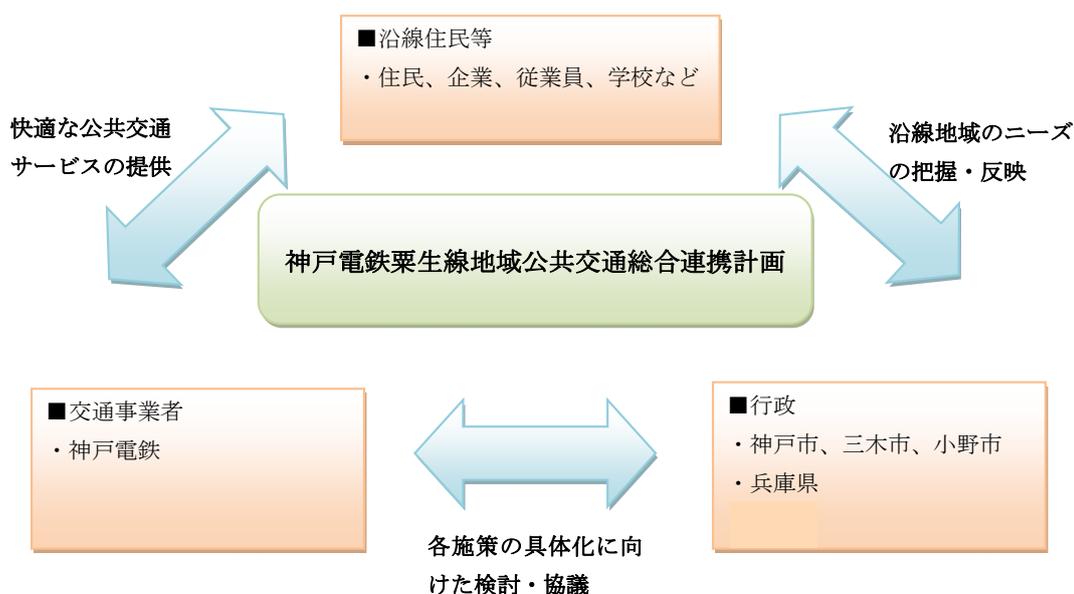


図 5-2 推進体制

～参考資料～

前・連携計画における取り組み実績について

計画の目標：輸送サービスの改善

事業		① 企画きっぷの充実と効果的なPR活動
事業内容		沿線内外の施設との連携や地域特性を活かした、魅力ある企画きっぷのメニューの充実や新規企画の検討を図るとともに、さらなる利用促進のために効果的なPRを行う。
事業評価 内容・評価	具体施策の内容	<p>○ 沿線内の施設・イベントと連携した企画きっぷ等の充実 沿線飲食店舗・観光施設や地域イベントと連携・協力し、新たな利用者開拓のための新規企画きっぷを販売。</p> <p>➢ 三木金物まつり 1 day チケットの発売 (H22~H24 年度) 大規模沿線イベントである金物まつりへの鉄道による来場促進のため、1日全線フリー乗車券(1,000円)を発売し、抽選で地域特産グッズを進呈。(方針3-③を含む) 【発売枚数】H22:215枚、H23:281枚、H24:290枚 ⇒ 一定の発売実績を上げており、まつりへの鉄道利用促進策の中で継続実施。</p>  <p>➢ 神鉄おもてなしきっぷの発売 (H23~H24 年度) ご当地グルメ飲食店等の利用券(1,000円)付1日全線フリー乗車券(2,000円)を発売。H23はスタンプラリーも実施するなど、地域店舗の参画協力のもと、夏~秋の利用誘発を図った。(方針3-④を含む) 【発売枚数】H23:3,922セット、H24:3,985セット ⇒ 一定の発売実績を上げており、地域参画の拡大を図りながら継続実施。</p>  <p>➢ 企画乗車券利用者へのサービス提供協力店舗の拡大 (H22~24 年度) 粟生線活性化の一環として沿線地域へ協力を働きかけ。(参照 方針6-③) 【協力店舗数】神鉄高速シニアパス(17箇所)、 神鉄おもてなしきっぷ(26箇所) 粟生線サポーターズくらぶ(27箇所) H25.3月現在 ⇒ 施策の付加価値向上と地域参画の基盤形成に寄与。更なる規模拡大を目指す。</p> <p>○ 自治体広報誌や新聞折込等を活用した沿線内外への効果的なPR (H22~H24 年度) 施策効果向上のため、各種媒体を活用したPRを強化。 自治体広報誌への定期的な情報掲載(広報KOBE、広報三木、広報おの)や「おでかけガイド」、「協議会だより」の制作・配布(新聞折込含む)。(方針1-②、方針3-⑦を含む) ⇒ 全戸配布の市広報誌活用や駅頭配布など広範・タイムリーな情報提供に努めた。訴求力向上を図りながら継続実施。</p>  <p>○ 企画乗車券自動販売機設置による販売拠点の充実 (H22~H23 年度) これまで販売対応できなかった係員不在駅でも各種企画乗車券が購入できるよう、機器設置により販売拠点を拡充した。(方針6-③を含む) 【設置駅】H22:緑が丘・三木・小野、 H23:栄・恵比須 (計5駅) ⇒ 販売チャネル拡大により販売増に寄与。引き続きPRを強化し既設機器の効果向上を図る。</p> 
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22:1,827千円、H23:1,316千円</p> <p>【実施効果】 H22:11千人、H23:16千人、H24:18千人 (効果測定可能なもの)</p> <p>※イベントと連携した企画きっぷについては、方針3-③に記載</p>

事業		② 割引制度等の充実
事業内容		潜在的な利用者層の掘り起こしのため、高齢者を対象とする割引制度の導入を検討する。また、その他の割引制度についても、利用促進効果や実施費用等を踏まえて実現可能性を検討する。
事業評価 内容・評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 自治体広報誌や新聞折込等を活用した沿線内外への効果的なPR (H22～H24年度) (参照 方針1-①)</p> <p>○ 新たな割引制度の導入</p> <p>➢ 神鉄・高速シニアパス発売 (H22～H24年度)</p> <p>今後も増加が想定される高齢者層の潜在需要掘起しと、その鉄道利用定着を図るため、70才以上を対象とする神鉄・神戸高速線内20日間フリーの格安乗車券(7,000円) &lt;1日当たり350円&gt;を発売。地域協力を得て沿線飲食店や温浴施設等での乗車券提示割引サービスも付加。</p> <p>さらに、利用者ニーズを反映し、有効期間延長(3か月→4か月)、協力店舗開拓、発売箇所拡大(志染、鈴蘭台に加えH24より小野で発売開始)等の改善実施。</p> <p>【発売枚数】H22: 734枚、H23: 3,138枚、H24: 4,266枚 (H25.2月末現在)</p> <p>⇒ 発売は増加傾向が続き、輸送人員の増加に大きく寄与。さらに潜在需要の確保に向け継続実施。</p>  <p>➢ 粟生線～三宮 平日昼間・土休日お得きっぷ試験発売 (H23～H24年度)</p> <p>昼間閑散時にワンコイン(500円)で三宮まで行けるきっぷを設定して欲しいとの地域住民アンケート結果を反映し、平日の昼間および土休日の終日に、粟生線内～三宮間で使用できる4枚セットの乗車券(2,000円) &lt;1枚当たり500円&gt;を試験発売。ラッシュ外の閑散時間帯でのお出かけ利用の誘発を図った。</p> <p>【発売枚数】第1期(H24.2/25～5/31): 3,695セット 第2期(H24.10/1～3/31): 4,513セット (H25.2月末現在)</p> <p>⇒ 当初は相当数の発売実績を上げたが、その後は減少。地域の要望もあり試験発売を継続したが発売数は目標を下回っており、このまま低迷が続けば中止。</p>  <p>➢ 三木市・福祉パスの拡充 (H23～H24年度)</p> <p>三木市の福祉行政の一環として、70才以上の高齢者や身体障害者等の市民の公共交通による外出支援のため、8日間有効の神戸電鉄線内フリーチケットもしくは5,000円分の「すずらんカード」を1割相当(500円)の本人負担で支給(9割を市が補助。H23年度は1人2枚まで、H24年度は1人1枚まで。)</p> <p>【フリー乗車券発行数】H23: 2,987枚、H24: 1,374枚 (2月末現在)</p> <p>⇒ 補助率が高いこともあり発行実績は多く、高齢者の利用誘発による輸送人員の増加にも寄与。制度継続を検討。</p> 
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22: 6,709千円、H23: 971千円、H24: 1,203千円</p> <p>【実施効果】 H22: 29千人、H23: 149千人、H24: 91千人 (効果測定可能なもの)</p>

事業	③ <b>ダイヤの改善・運行本数見直し等の運行改善</b>
事業内容	利用実態に合わせた運行形態（ダイヤ、運行本数等）について検討し、現状の利便性、効率性の改善を図る。
<p style="text-align: center;">事業評価</p> <p style="text-align: center;">具体施策 の 内容・評価</p>	<p>○ <b>昼間時間帯における利用実態に合わせたダイヤ変更（H24年度）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>優等列車（急行）運行による速達性向上</b></li> <li>➤ <b>運行本数削減による運転効率の改善</b> <p>昼間時間帯に新たに優等列車（急行）を運行（上り・下り各11本）することにより神戸方面への速達性を向上した（木幡以遠～新開地間 約4分短縮）。一方で利用者数が極めて少ない昼間時間帯の志染以遠の運転本数を削減し（志染～粟生間1時間間隔で運行）、朝・夕の通勤・通学時間帯の運転本数と北条鉄道・加古川線との接続を維持しつつ、利用実態に合わせた輸送効率化を図った。</p> <p>⇒ 速達性向上により他交通手段に対する競争力を高め、神戸方面への外出利用の利便性向上。また、利用実態に合わせた輸送効率化により路線維持のための収支改善に寄与。</p> </li> </ul> <div data-bbox="453 808 1453 1339" style="text-align: center;"> <p>粟生線（鈴蘭台西口～粟生）平日時間帯別降車人員 &lt;2009/5/12(火)&gt;</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">資料：神戸電鉄</p> </div> <p>○ <b>列車短編成化の検討・実施（H24年度～）</b></p> <p>現在、3両編成と4両編成を混合運用しているが、利用者数の少ない昼間時間帯を中心に利用実態に合わせた輸送効率化のため3両編成運用を拡大する。費用対効果を考慮し、現在の4両編成列車を3両編成に組成変更する工事を順次実施する。（H24：2編成実施予定）</p> <p>⇒ 動力費、保守管理コスト等の低減により路線維持のための収支改善を図る。</p>
	事業費・実施効果

事業	④ 接客サービスの向上	
事業内容	継続的な社員教育の実施や乗車マナーの向上啓発等により、利用者に満足いただける接客サービス、ご利用環境の向上を図る。	
事業評価 具体施策 の 内容・評価	<p>○ 利用満足度を高めるための社員教育の実施（H22～H24年度）            CSをテーマにした集合教育や、接客・接客対応の個別フォローアップ教育を実施。            ⇒ 接客サービス向上のため継続的に実施。（全駅係員を対象とした集合教育を定期的（半年毎）に、個人指導については毎月、継続実施）</p> <p>○ ご利用・ご乗車マナーの向上啓発（H22～H24年度）</p> <p>➢ マナー啓発ポスターの制作・掲出（H22年度）            粟生線活性化のシンボルキャラクターを活用し注目効果を高めた啓発ポスター（5種類）を制作し、車内や駅等に掲出してマナー向上啓発を図った。            ⇒ 事業としては一旦完了。新型車両（6000系）の全車掲出など一部で継続掲出。</p> <div data-bbox="541 757 855 960" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="959 757 1273 960" data-label="Image"> </div> <p>➢ グッドマナーキャンペーンの継続実施（H22～H24年度）            沿線高校生よりマナー啓発を呼びかけるポスター・放送作品を募集し、優秀作品について車内掲出、駅放送を実施。（H24応募数 ポスター34作品、放送49作品）            ⇒ 沿線高校生による地域参画の取り組みとして継続実施。</p> <div data-bbox="651 1140 1114 1420" data-label="Image"> </div> <p>○ 快適な車内環境の創出</p> <p>➢ 沿線高校生制作のポップリ車内吊下げ（H22年度）            小野市で開催された全国ハーブサミットへの旅客誘致PRも兼ねて、沿線の小野工業高校生制作によるポップリの車内吊革への吊下げ実施。            ⇒ 地域イベント連携、地域高校生参画の企画として利用啓発の関心を喚起する話題作りには寄与したが、事業としては一旦完了。</p> <div data-bbox="1254 1518 1422 1738" data-label="Image"> </div> <p>➢ キャラクターデザイン座席シートの導入（H23年度）            （参照 方針1-⑤）</p>	
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22：664千円</p> <p>【実施効果】 定量的な効果測定は困難であるが快適な利用環境の整備に寄与。</p>

事業		⑤ 利用しやすい駅・快適な駅づくり
事業内容		案内施設の整備など駅施設の改善により、安心して利用しやすい駅づくりに努める。
事業評価	<p data-bbox="264 1003 400 1126">具体施策 の内容・評価</p>	<p data-bbox="427 338 959 376">○ 快適性向上のための駅施設の改善</p> <p data-bbox="454 405 1066 600"> <b>➤ 駅周辺植栽整備 (H22～H23 年度)</b>            雑草が繁茂しホームからの景観を損ねていた西鈴蘭台、鈴蘭台西口、三木上の丸、小野の各駅にヒメイワダレソウの植栽を実施。            ⇒ 駅での待合環境の快適性を向上した。            整備事業は一旦完了。         </p>  <p data-bbox="454 629 1066 857"> <b>➤ 駅前市民トイレの整備 (H23 年度)</b>            既存の構内トイレが老朽化していた三木駅前に、神戸電鉄車両の外観デザインを施した、身体障害者にも対応した市民トイレを新設。            (兵庫県・三木市により実施)            ⇒ 駅での待合環境の快適性を向上した。            整備事業は一旦完了。         </p>  <p data-bbox="454 887 1177 1081"> <b>➤ 待合所の整備 (H23 年度)</b>            北条鉄道・JR 加古川線と接続する粟生駅前に、空調設備を備えた待合所を新設。            (兵庫県・小野市により実施)            ⇒ 駅での待合環境の快適性を向上した。            整備事業は一旦完了。         </p>  <p data-bbox="427 1122 1086 1160">○ 車両における座席改良等による快適性向上</p> <p data-bbox="454 1189 1453 1417"> <b>➤ キャラクターデザイン座席シートの導入 (H23 年度)</b>            粟生線活性化のシンボルキャラクター (しんちゃん・てつくん) や沿線各市のシンボル花 (あじさい、さつき、ひまわり、すずらん) をデザインした座席シートを、粟生線運用頻度の高い 1100 系 (5 編成) とラッピング列車運用する 5000 系 (1 編成) に導入。(方針 1-④、方針 3-⑥を含む)            ⇒ 快適な車内環境提供による利用促進と継続的な利用啓発、マイレール意識の喚起を図った。         </p>  
	<p data-bbox="264 1883 400 1966">事業費・ 実施効果</p>	<p data-bbox="443 1854 1118 1892">【事業費】 H22 : 1,729 千円、H23 : 5,460 千円</p> <p data-bbox="443 1921 1453 1960">【実施効果】 定量的な効果測定は困難であるが快適な利用環境の整備に寄与。</p>

計画の目標：駅アクセスの改善と駅の活性化

<p>事業</p>	<p>① 駅停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信</p>
<p>事業内容</p>	<p>パーク&amp;ライド、キス&amp;ライド、サイクル&amp;ライドの促進を図るとともに、粟生線沿線駅における駐輪施設の改善、バスとの効果的な接続など、交通端末手段とのアクセス性の向上を図る。</p>
<p>事業評価 内容・評価</p>	<p>○ <b>パーク&amp;ライド用駅前駐車場の整備（H22～H24年度）</b> 沿線住民のニーズに応え、一時利用対応の時間貸P&amp;R駐車場を増設（5か所56台分）。また、既設時間貸P&amp;R駐車場（恵比須）も含めて、新たに鉄道利用者に対する駐車料金割引を導入した。 【新設箇所】 &lt;時間貸&gt; 小野（10台）、小野第2（8台）、三木（20台）、広野ゴルフ場前（10台）、押部谷（8台） ⇒ 次第に周知が進み全体で7割程度の稼働率をあげ、自動車アクセスによる乗継利用促進に寄与。駅前の用地確保可能箇所での整備は完了。今後は既設箇所のPR継続により稼働率向上を目指す。</p>   <p>○ <b>駐輪施設の改善・整備（H23年度）</b> 複合産業団地の最寄駅である木津駅の駐輪場（約40台収容）において屋根を設置し、雨天時等にも利用しやすいよう改善を図った。 ⇒ 産業団地通勤者等の自転車による駅アクセスの利便性を向上。ハード整備は完了したため、利用者増加のPRを継続。</p> <p>○ <b>到着時刻の表示された神鉄運行時刻表の作成</b></p> <p>○ <b>インターネット等を使用した乗継情報等提供サービス（H22～H24年度）</b></p> <p>➢ 「おでかけガイド」（H22・23年度）、「ご利用ガイド」（H24年度）への掲載（参照 方針3-⑦） 粟生線の実態や協議会活動のほか、ご利用上の各種サービスや沿線お出かけ情報を提供する小冊子を発行・頒布し、併せて各列車の各駅発着時刻表やアクセスバス情報を掲載し、保存版として活用を図った。 ⇒ 駅頭配布のほか新聞折込や戸別配布も実施し、潜在的な利用者にも幅広くきめ細かな情報提供に努めた。今後、ダイヤ改正やバス路線変更等の際には見直しを検討。</p>  <p>➢ <b>協議会ホームページ制作・情報発信（H22年度）</b>（参照 方針3-⑦） 協議会独自のホームページを新たに制作し、上記「おでかけガイド」等に掲載した内容を、インターネットを通じて情報発信した。 ⇒ インターネットの活用により情報発信の範囲を拡大。引き続き有効な活用を図る。</p> <p>○ <b>駅周辺施設案内板の整備（H22～23年度）</b> 駅周辺施設やハイキングコース、名所・旧跡等のルートを示した案内板を設置。 【設置駅】 H22：栄、H23：緑が丘 ⇒ 域外来訪者に対して駅からの移動情報の提供を行い、利便向上を図った。今後も、既設看板をハイキング誘致等に活用する。</p> 

事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ キス&amp;ライド（送迎）用駐停車スペースの確保 ⇒ 現状では該当地がないため、今後の適地状況に応じて検討。</p>
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22：5,853千円、H23：31,425千円 【実施効果】 H22：2千人、H23：6千人、H24：20千人 (効果測定可能なもの)</p>

事業		② バスとの効果的な接続
事業内容		<p>駅情報、バスおよび列車の運行情報、駐車場情報、自転車・バイクの駐輪情報などを継続して発信することにより、誰もが使いやすい駅にする。</p>
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ バス停およびバス時刻表の案内（H22～H24年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バスアクセスマップの制作・配布（H22年度） 従来、十分でなかったアクセスバス関連情報について、路線、時刻表、駅周辺バス停等の情報を総合的に盛り込んだ、各市域毎のマップを制作・配布した。 ⇒ 情報提供ツールとしては一旦完了。今後は、バス路線の変更時等に適宜見直しを検討。</li> <li>➢ 「おでかけガイド」（H22・23年度）、「ご利用ガイド」（H24年度）への掲載（参照 方針3-⑦）</li> <li>➢ 協議会ホームページ制作・情報発信（H22年度）（参照 方針3-⑦）</li> </ul> <p>○ 駅へのアクセスバスの検討（H24年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 北播磨総合医療センター～駅へのアクセスバスの検討（H24年度） H25年10月に開業予定の北播磨総合医療センターへの粟生線からのアクセスバスとして、三木市・小野市にて榎山駅からのシャトルバスの運行について検討中。</li> </ul>
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22：2,730千円 【実施効果】 定量的な効果測定は困難であるが、アクセス情報の充実による利便性向上に寄与。</p>



事業		③ 駅前の特色あるイベントの開催
事業内容		駅前における特色あるイベントの開催により、駅の活性化と鉄道の利用促進を図る。
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 駅前イベントの新たな企画の検討・実施 (H22~H24 年度)</p> <p>▶ キャラクター列車出発式実施 (H22 年度)  粟生線活性化シンボルキャラクターによる装飾を施したキャラクター列車運行開始にあたり、小野駅にて地域住民による朝市や地元中学生の演奏などによる出発式を実施 (参加数: 約 250 人)。  ⇒ 粟生線活性化のキックオフイベントとして、地域参画意識の向上に寄与。</p>  <p>▶ 駅前朝市実施 (H22 年度)  駅前の賑わい創出の一環として毎週日曜朝に、緑が丘駅前にて野菜の朝市を実施した。  ⇒ 賑わい創出のきっかけ作りとして実施。施策としては一旦完了</p>  <p>▶ ラッピング列車お披露目式実施 (H23 年度)  (参照 方針 3-⑥)</p> <p>▶ 高校生レストラン (OTH Cooking) 実施 (H24 年度)  粟生駅前にて、沿線高校生によるレストラン運営や手作り菓子の販売イベントを実施。北播磨県民局とも連携し、ミニトレインの運行等と併せて利用啓発 PR を行った。  ⇒ 沿線高校生や関係自治体、事業者が協力して、地域住民への利用啓発の呼びかけを実施。</p> 
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22 : 336 千円</p> <p>【実施効果】 定量的な効果測定は困難であるが、地域住民団体や沿線大学・高校・中学生による手作りイベントを通じて、活性化への参画意識の向上に寄与。</p>

事業		④ 駅の空きスペースの活用
事業内容		駅の空きスペースを活用し、駅の賑わいを創出する活性化策を展開する。
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 駅の空きスペースを活かした活性化策の展開  ⇒ 期間中には、ボランティア等の協力確保など実施環境が整わず、今後、地域協力の得られる施策について継続検討。</p>
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 —</p> <p>【実施効果】 —</p>

方針 3

定期利用者と交流人口の拡大

計画の目標：定期利用者の増加と新規利用者の開拓

事業	① 沿線立地企業等への粟生線通勤・通学利用のPR	
事業内容	<p>沿線に立地する企業等へ積極的な粟生線の通勤・通学利用を働きかけ、鉄道利用を促進する。</p> <p>※モビリティ・マネジメントに関連する事項は後述（方針 4-①）</p>	
事業評価	<p>具体施策の内容・評価</p>	<p>○ 沿線企業・学校への公共交通利用に関するアンケート実施（H23 年度） （参照 方針 4-①）</p> <p>○ 各種定期券設定の検討・実施（H24 年度）</p> <p>➢ 粟生線通勤 Come Back 補助制度募集開始（H24 年度）                  自動車通勤等からの通勤定期利用への転換促進のため、粟生線区間の 6 か月通勤定期運賃の半額を協議会から支援する制度（H25 年 10/1 まで）を導入。2 月より募集を開始し、沿線地域や企業へも協力要請活動を実施。                  （目標：300 人）                  ⇒ 次期連携計画の目標達成のための主要施策として、安定的な利用者層としての通勤定期利用者確保に注力していく。</p>
	<p>事業費・実施効果</p>	<p>【事業費】 H24：1,851 千円</p> <p>【実施効果】 粟生線通勤 Come Back 制度は H25 年度より効果発現。</p>



事業	② 小中学校等への粟生線利用の促進と支援	
事業内容	<p>小学校、中学校等の教育機関に対して、校外学習や社会見学等での粟生線利用の促進を図れるよう、働きかけおよび利用時のサポート等を行う。</p>	
事業評価	<p>具体施策の内容・評価</p>	<p>○ 小中学生の校外学習等の企画・実施サポート</p> <p>○ 小学生、園児を対象とした乗り方教室、体験乗車等の実施（方針4-①を含む）</p> <p>➤ 農業体験学習企画の実施（H22～24年度）  田園地帯の沿線特性を活かし、地元ボランティアの協力の下、粟生駅周辺の田畑での田植え・稲刈り体験を実施。（3年間で延べ29校・2,104人参加）  ⇒ 郊外学習での新規利用開拓を促進するとともに、次世代の利用者である小学生に対して公共交通への理解と利用の意識づけを図った。  粟生駅周辺での企画は一旦終了。H25年度からは藍那駅周辺で実施予定。</p>  <p>➤ 環境体験学習企画の実施（H23・24年度）  三木駅周辺の三木山森林公園での環境体験学習を企画し、併せて環境に優しい公共交通の意義を伝える内容のプログラムを実施。（2年間で延べ7校・404人参加）  ⇒ 農業体験学習と同様の趣旨で実施。引き続き誘致に努め公共交通利用啓発教材（紙芝居等）充実を図る。</p>  <p>➤ 学校行事利用に対する交通費補助制度（三木市）（H23・24年度）  新規利用開拓のため、学校行事での公共交通利用の際の交通費補助を導入。  ⇒ 制度のPRによる市民の利用機会の拡大を図る。  （2年間で延べ65件・3,347人利用）</p> <p>➤ 車両工場見学会の実施（H22～24年度）  幼稚園児・小学生向けに鈴蘭台車両工場の見学会を実施し、公共交通としての鉄道の重要性の理解促進や利用啓発を図った。  ⇒ 継続実施。</p> <p>➤ 公共交通利用啓発教材の制作（H24年度）  幼稚園児・小学生向けに、公共交通利用の必要性をわかりやすく紹介する、紙芝居や下敷きを制作し、今後の利用啓発イベントや出張授業等で活用を図る。  ⇒ H24年度に制作。H25年度以降の取り組みに活用。</p> <p>○ ギャラリートレイン等の拡充</p> <p>➤ ギャラリートレインほかイベント列車の運行（H22～24年度）  （参照 方針1-④、3-③・⑥）  車内に幼稚園児や小・中学生、高校生の制作した絵画や作品を営業列車や各種イベント列車の車内に掲出し、ホームページで運行情報を提供。（ギャラリートレイン、七夕列車、クリスマス列車、グッドマナーキャンペーン、ポスターコンクール等）  ⇒ 鉄道に対する親しみを育み、園児・生徒に加え、その父兄も含めて、支持・協力者の拡大を図った。今後も費用対効果を踏まえ継続実施。</p> 
	<p>事業費・実施効果</p>	<p>【事業費】 H22：1,643千円、H23：157千円、H24：672千円</p> <p>【実施効果】 H22：3千人、H23：1千人、H24：1千人  （効果測定可能なもの）</p>

事業	③ 地域間の各イベントとの連携強化
事業内容	沿線地域で開催される各イベントの地域間の連携を強化する。
事業評価 具体施策 の内容・評価	<p>○ 沿線地域イベントと連携した利用啓発・利用促進活動の実施</p> <p>➤ 三木金物まつり 1 day チケットの発売 (H22~H24 年度)        大規模沿線イベントである金物まつりへの鉄道による来場促進のため、1日全線フリー乗車券(1,000円)を発売し、抽選で地域特産グッズを進呈。(方針1-①を含む)        【発売枚数】H22:215枚、H23:281枚、H24:290枚        ⇒ 一定の発売実績を上げており、まつりへの鉄道利用促進策の中で継続実施。</p>  <p>➤ キャラクター着ぐるみ、ミニトレインによる利用啓発活動 (H22~H24 年度)        粟生線活性化シンボルキャラクター「しんちゃん」、「てつくん」の着ぐるみと、6000系車両のミニトレインを製作し、三木金物まつり、小野まつり等の沿線の大規模イベントから地域主催のイベントまで、広く利用啓発活動を実施。        【延べ稼働日数】 着ぐるみ:20日        ミニトレイン:32日        ⇒ 高い頻度でイベントに出動することで、粟生線活性化のシンボルとして定着し、地域住民の関心や親近感の向上に寄与。今後も地域と連携して継続実施。</p>    <p>○ 加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会イベントとの連携        加古川線等利用促進・沿線地域活性化協議会で開催している各種利用啓発・利用促進イベントとのタイアップを図った。(北播磨の鉄道ポスターコンクール、加古川線等絵画公募展、清盛トレイン、婚活列車イベント等)        ⇒ 加古川線・北条鉄道沿線地域との連携による利用促進活動範囲拡大のきっかけとして実施。今後も連携効果の向上を目指す。</p> 
	事業費・実施効果

事業	④ 沿線地域における観光資源の魅力的な活用
事業内容	沿線地域における観光資源の発掘、魅力の向上やPRにより交流人口を増加させ、粟生線沿線以外からの利用促進に繋げていく。
事業評価 具体施策 の内容・評価	<p>○ 沿線施設・観光資源と連動したスタンプラリー実施・企画乗車券発売（H22～H24年度）</p> <p>➤ 沿線ウォーキングと連動したスタンプラリー実施（H22・23年度）        自然環境に恵まれた沿線特性を活かし、粟生線の自然・歴史の再発見をテーマに各種ウォーキングコースを設定し、コース内のスポットを回るスタンプラリーやウォーキングイベントとも組み合わせた、秋～春にかけての企画を実施。  <b>【推定乗車数】</b> H22：約7,400人、H23：約9,000人        ⇒一定の利用が見込めるハイカー層を中心に、域内外からのリピート利用の促進を図った。今後も費用対効果を考慮しつつ有効な施策を検討。</p>   <p>➤ 沿線施設・飲食店と連携したスタンプラリー実施・企画乗車券発売（H22・23年度）        ご当地グルメ飲食店等の利用券（1,000円）付1日全線フリー乗車券「神鉄おもてなしきっぷ」（2,000円）を発売。H23は協力店舗を回るスタンプラリーも実施するなど、地域店舗の参画協力のもと、夏～秋の利用誘発を図った。（方針1ー①を含む）  <b>【発売枚数】</b> H23：3,922セット、H24：3,985セット        ⇒一定の発売実績を上げており、地域参画の拡大を図りながら継続実施。</p>  <p>➤ 沿線中学・高校や沿線施設と連携したスタンプラリー「SHINTETSU LIVE&amp;RALLY」実施（H22年度）        地元FM局（KISS-FM）とのタイアップによる、活性化事業1周年企画の一環として、三木中学校・小野高校吹奏楽部とプロアーティストとの音楽ライブイベントと沿線施設を回るラリーイベントを実施。  <b>【ライブイベント参加者数】</b> 約560人        ⇒ 中学・高校生参画による地域一体での取り組みにより利用啓発意識の向上に寄与。</p>   <p>○ 沿線観光資源の認知度向上による域外利用者誘致（H22～H24年度）        各種イベント等において利用啓発PRと併せて沿線市観光パンフレット配布したほか、西鈴蘭台駅に小野市広告看板を掲出（H22）。沿線の隠れた観光資源をPRすることで、域外利用者を中心に新たな観光需要の掘り起こしに努めた。        ⇒ 今後も機会に応じて活動を継続。</p>
	事業費・実施効果

事業	⑤ 魅力的な車窓からの景観づくり
事業内容	花をテーマにした快適で魅力的な車窓からの景観づくり（フラワーライン計画）に努め、粟生線のイメージ向上と、景観スポットでの地域交流等による鉄道利用の促進を検討する。
事業評価 具体施策 の内容・評価	<p>○沿線への植樹・植栽実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見津信号場（木津～木幡駅間）周辺に桜並木（桜 45 本、延長約 500m）を造営。沿線幼稚園児による植樹式実施。（H22 年・神戸電鉄事業）</li> <li>・車窓から見える木津駅周辺の沿線法面へ桜（37 本）・モミジ（14 本）の植樹を実施。（H22・23 年度）</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿線農家の協力により、線路沿いの葉多駅周辺の農地に菜の花の植栽を行い、開花時に地域住民によるハイキングや炊き出し等の手作りイベントを実施するとともに、キャラクター着ぐるみによる利用啓発 PR を行った。（H22・23 年度）</li> </ul>   <p>⇒ 車窓からの景観向上により、乗車環境の快適性向上を図った。 ハード整備については一旦完了。</p> <p>○ 車窓・沿線風景をテーマとするフォトコンテストの実施（H22 年度）</p> <p>活性化事業 1 周年企画の一環として「粟生線のちょっといいところ再発見」をコンセプトとして、粟生線の電車、駅、それに関わる人や風景をテーマとするフォトコンテストを実施。優秀作品を 1 周年イベントの PR ポスターとして掲出した。</p> <p>⇒ 利用者からの公募企画を通じて、活性化への参画意識向上に寄与。今後も機会に応じた活動検討。</p>  
	事業費・実施効果

事業	⑥ 鉄道に関するイベントの開催
事業内容	粟生線沿線や鉄道の魅力を発信するイベントを開催し、沿線地域内・外間の鉄道利用の促進を図る。
事業評価 具体施策の内容・評価	<p>○ 神鉄トレインフェスティバルでの地域参画イベントの実施 (H22～24 年度)</p> <p>毎年秋に実施する神鉄トレインフェスティバル（鈴蘭台車庫）において、粟生線の利用促進、利用啓発を広く PR するため、沿線の飲食店による粟生線グルメ屋台村、高校生による研究活動報告、神戸芸術工科大学によるお絵かきコーナー等の地域参画企画のほか、キャラクター着ぐるみやミニトレインを活用した利用啓発冊子の配布、サポーターズくらぶ入会受付などの活動を実施。</p> <p>【来場者数】 H22：1,835 人、H23：2,903 人、H24：3,493 人 ⇒ 来場者数増加に伴う鉄道利用増加、地域参画企画による参画意識の向上に寄与。効果拡大を図りながら継続実施。</p>   
	<p>○ 沿線の特徴を活かしたイベント列車の運行 (H22～24 年度)</p> <p>各種イベント列車の運行により、粟生線に対する親しみを感じたり、楽しみながら参加できる企画実施を通じて、活性化への支持・協力者の拡大と利用啓発効果の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>七夕列車運行・駅装飾 (H22～24 年度) 沿線幼稚園児 (16 園・約 1500 人) に願い事を書きこんだ短冊や七夕飾りで 6000 系車内や駅 (7 駅) を装飾してもらい利用啓発意識の向上を図った。</li> <li>クリスマス列車運行 (H22～24 年度) 600 系車両やラッピング列車に、沿線幼稚園児 (14 園・約 500 人) がサンタクロースへの願い事やメッセージを書きこんだポスターを掲出したほか、ヘッドマークや車窓ステッカーによる装飾を実施。また、クリスマス列車を運用したクリスマス会 (約 300 人) を実施し、利用啓発意識の向上を図った。</li> <li>ミステリートレイン運行 (H22～24 年度) 夏休み期間中の家族連れを対象に、事前に内容や行程をお知らせせずに、粟生線沿線の施設見学や、陶芸等の体験学習を楽しんでいただく、特別企画の列車を運行。家族ぐるみのリピート利用誘発やマイレール意識の醸成を図った。(各回約 150 人)</li> <li>ライブトレイン (H22 年度)、おやじジャズトレイン (H23・24 年度) 列車内でアマチュアバンドの協力によるジャズの生演奏を楽しむイベント列車を運行 (H23 年度から神戸県民局事業として実施)。併せて車内での利用啓発 PR を実施。(各回約 150 人)</li> </ul> <p>⇒ 参加者の満足感が高く、利用啓発意識の向上に寄与。さらに実施効果の向上を目指して継続的に取り組む。サイクルトレインは安全確保上の問題から現状では実施困難。</p>    

事業評価	具体施策 の 内容・評価	<p>○ 沿線大学と連携した車両ラッピング装飾・運行、お披露目イベント実施（H23年度）</p> <p>神戸芸術工科大学の学生からラッピングデザイン案を募集し、採用候補案3点から一般投票（約1200票）により最終作品を決定。沿線市の花や自然をテーマにした活性化のシンボル車両（4両1編成）として、「HAPPY TRAIN」（～見ても幸せ、乗るともっと幸せ～）の愛称で、営業列車やイベント列車に運用。（方針4-②を含む）</p> <p>運用開始にあたっては、志染駅にて、協力学生や地域住民、地元中学吹奏楽部、鉄道ファン等の参加によるお披露目セレモニーと見津車庫での撮影会を実施し、粟生線への愛着向上を図った。</p> <p>⇒ 大学生のデザイン制作や地域参画による投票やセレモニーを通じて、地域手作りのシンボル車両として認知され、イベント列車等への活用においても利用啓発意識の向上に寄与。さらに効果的な活用を図る。</p>
	事業費・ 実施効果	<p>【事業費】 H22：3,313千円、H23：10,644千円、H24：1,509千円</p> <p>【実施効果】 H22：2千人、H23：2千人、H24：1千人 （効果測定可能なもの）</p>



事業	⑦ ホームページ等の広報により粟生線の魅力を発信
事業内容	イベントの実施やホームページ等による広報を通じて、粟生線の魅力を発信していく。
事業評価	<p>○ おでかけガイドの充実と粟生線活性化協議会だよりの制作・配布 (H22～H24 年度) (方針 2-①を含む)</p> <p>利用啓発のための、粟生線の現状や協議会の取り組み状況のほか、利用促進のための、時刻表・バスマップ・企画乗車券等のきめ細かなサービス情報を掲載し、広く利用者へ配布。新聞折込や駅頭・沿線地域イベント等での配布活動を拡大し、日常利用されていない層への情報発信も充実した。</p> <p>➤ おでかけガイド制作・配布 (H22～H24 年度) (H24 年度はご利用ガイド)</p> <p>毎年夏休み前に、夏のお出かけ情報と併せて、上記の利用啓発・利用促進情報を掲載した小冊子を発行。新聞折込や沿線住戸への配布を実施 (約 7 万部)。 ⇒ 小冊子にすることで、列車別の時刻表やアクセスバスマップなど、纏まった量の情報提供が可能となった。タイムリーに情報提供する協議会だよりの (チラシ) と機能をすみ分けて効果的な情報発信を実施。引き続き地域への情報発信媒体としての効果向上を図る。</p> <div data-bbox="555 902 1353 1211" data-label="Image"> </div> <p>➤ 粟生線活性化協議会だより制作・配布 (H22～H24 年度)</p> <p>春・夏・秋・冬の年間 4 回発行を基本とし、折々の協議会事業の実施状況や沿線イベント情報を掲載した PR チラシを制作・駅や沿線施設での配布のほか、沿線自治会を通じた回覧・配布も行い、継続的かつタイムリーな情報提供を図った。 ⇒ 上記記載のとおり、小冊子のおでかけガイドと機能をすみ分けて効果的な情報発信を実施。引き続き地域への情報発信媒体としての効果向上を図る。</p> <div data-bbox="1082 1305 1449 1709" data-label="Image"> </div> <p>○ 協議会ホームページの制作と情報発信 (H22 年度～) (方針 2-①を含む)</p> <p>活性化協議会の独立したホームページを制作し、様々な情報をタイムリーに掲載し、発信情報を充実させることで、粟生線活性化への理解促進と参画行動の誘発を図った。 (<a href="http://www.shintetsu.co.jp/aosen_kasseika/">http://www.shintetsu.co.jp/aosen_kasseika/</a>) ⇒ 沿線地域への有効な情報発信媒体として、さらなる内容・機能の充実を図る。</p> <div data-bbox="1145 1843 1449 2056" data-label="Image"> </div>

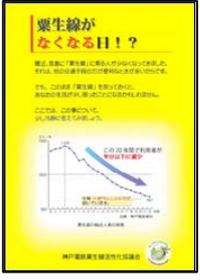
<b>事業評価</b>	<b>具体施策 の 内容・評価</b>	<p>○ 新聞媒体や各種 PR 設備を活用した情報発信（H22～24 年度）</p> <p>➤ 利用促進 P R 新聞広告実施（H22 年度）        駅や車内での PR 媒体では情報提供ができない、現状の非利用者に対する利用促進 PR のため、新聞広告による企画乗車券や沿線イベントに関する情報発信を実施。新規利用者の拡大を図った。        ⇒ 非利用者層への訴求効果向上に寄与。協議会事業としては一旦完了。</p> 
	<b>事業費・ 実施効果</b>	<p>➤ 駅 P R 放送設備整備と沿線高校生による P R 放送実施（H23 年度）        粟生線各駅において、沿線イベントや企画乗車券等の PR 放送を一斉放送できる設備を整備。放送アナウンスは沿線の小野高校放送部の協力を得て、随時タイムリーな内容に更新して実施中。        ⇒ 列車待合時間などでの駅利用者への聴覚的な訴求が可能となり、情報発信効果の向上に寄与。ハード整備は完了し、一層の効果的な活用を図る。</p> <p>➤ 協議会 P R 専用駅ポスター枠、チラシラック設置（H24 年度）        粟生線各駅において、常時、利用啓発の訴求と情報提供を図るため。専用のポスター枠、チラシラックを設置し、利用啓発ポスターやサポーターズくらぶ入会募集ポスターの掲出や、協議会だより、企画乗車券 PR チラシ等を設置。        ⇒ ハード整備完了。各種媒体による情報発信時に活用を図る。</p>  <p>【事業費】 H22：10,820 千円、H23：19,216 千円、H24：4,301 千円        【実施効果】 H22：3 千人        （効果測定可能なもの）</p>

方針 4

公共交通優先利用行動の喚起

計画の目標：公共交通利用意識の向上

<p>事業</p>	<p>① 企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施</p>
<p>事業内容</p>	<p>沿線に立地する企業および学校、転入者等に対して公共交通の利用意識を向上するためにモビリティ・マネジメントを実施し、自発的な粟生線の優先利用行動を喚起する。</p>
<p>事業評価 内容・評価</p>	<p>○沿線住民・企業等に対する公共交通利用・エコ通勤への協力要請 (H23・24 年度) (方針 3-①を含む)</p> <p>➤ 地元 FM 局と連携した利用啓発番組や車内放送の実施 (H22 年度)</p> <p>活性化事業 1 周年企画の一環として、KISS-FM の放送番組内 (全 9 回) において自治体や神戸電鉄担当者、地域住民等が出演して、協議会での取り組みや粟生線の現状、地域の名所・イベントなどを紹介。広く地域への情報発信を行った。また、ラジオ DJ による車内・駅構内での利用啓発アナウンス放送を実施。</p>  <p>⇒ FM 放送媒体を活用して、現状の沿線非利用者に対しても広く利用啓発を訴求。事業としては一旦終了。</p> <p>➤ 沿線住民・沿線企業への TFP アンケートの実施 (H23・24 年度)</p> <p>個別のコミュニケーション活動を通じて公共交通利用の意識・行動変革を促す TFP (トラベルフィードバックプログラム) の取り組みとして、沿線住民 (約 1 万世帯) に、公共交通利用の動機付けとなるコミュニケーションアンケートを実施 (回答 2,878 世帯・3,934 名)。そのうち再調査に応じた 2,751 名に対して行動変化の効果検証アンケートを実施。1,627 名の回答のうち約 500 名から利用が増えたと回答。(H23 年度)</p>  <p>H24 年度には、前回回答者約 1,230 名に対して、利用頻度の変化状況の確認やサポーターズくらぶ入会促進を図るアンケートを実施。(回答 669 名)</p> <p>沿線企業・学校 (1,051 箇所) に対しても、職員の通勤実態を把握するとともに、公共交通利用による通勤を啓発するアンケートを実施。(回答 353 件)</p> <p>⇒ 利用啓発意識の向上と一定の利用行動の定着に寄与。利用増加の可能性の高い層への継続的なコミュニケーションを図ることにより、協力者の囲い込みと利用行動の拡大を図っていく。</p> <p>➤ 沿線住民参加によるシンポジウム開催 (H23 年度)</p> <p>「乗って残そう粟生線のある未来の生活」をテーマに、沿線住民が主体的に存続・活性化の問題を考えるきっかけとして、他地域での活動事例や沿線高校生の取り組み報告のほか、沿線住民代表、学識者、自治体、神戸電鉄、他地域 NPO 代表によるパネルディスカッションを実施。</p>  <p>(参加：313 名)</p> <p>⇒ 地域参画による企画を通じて地域鉄道の必要性について考え、理解を深めることに寄与。今後も、サポーターズくらぶ等と連動した形で、効果的な地域参画の企画を検討。</p> <p>➤ 沿線企業・自治会等への個別協力要請活動の実施 (H23・24 年度)</p> <p>駅勢圏の沿線自治会の会合や沿線企業・学校・病院へ直接出向き、face to face での粟生線の現状や存続の必要性の説明や、企画乗車券利用やサポーターズくらぶ入会、粟生線通勤 Come Back 補助制度活用等への協力呼びかけを実施。</p> <p>⇒ 地域の利用行動拡大のため取り組みを継続。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事業評価</p>	<p style="text-align: center;">具体施策 の内容・評価</p>	<p>○ 公共交通の利用動機付けパンフレットの作成と配布</p> <p>➤ 公共交通利用動機付け小冊子・ポスター配布・掲出 (H23・24 年度)</p> <p>沿線地域住民に現実の状況と鉄道が無くなった場合の影響を正しく理解してもらうとともに、関心を喚起して主体的に考え、行動することを促すため、「粟生線が無くなる日!」「粟生線の問題はあなたの生活の問題です」「乗らないと残りません」といったメッセージの小冊子・ポスターを製作し、沿線地域への戸別配布や各種沿線イベント等での配布、駅・車内や沿線関係施設等での掲出を実施。</p> <p>⇒ これまで以上に実態に踏み込んだ内容の情報発信を行うことにより、利用啓発意識の向上に寄与。実際の利用行動拡大に繋がるよう取り組み継続。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>➤ 新聞全面広告による乗車行動の喚起 (H24 年度)</p> <p>広く沿線内外に向けた、存続・活性化のための利用行動・啓発行動喚起のため、サポーターズくらぶ入会促進、粟生線通勤 Come Back 補助制度活用、連携計画パブリック・コメントへの意見募集を訴えかける、神戸新聞（兵庫県下：約 56 万部）全面カラーでの啓発広告掲載。（神戸電鉄事業として実施）</p> <p>⇒ ポスター・チラシ以上に広範囲にわたる利用啓発喚起の PR に寄与。今後は費用対効果や状況に応じて検討。</p>  <p>○ 小学生、園児を対象とした乗り方教室、体験乗車等の実施 (H22～24 年度) (参照 方針 3-②、3-⑤)</p> <p>小・中学生、園児を対象に、体験学習や絵画制作・車内装飾への参画や、トレインフェスティバル等での鉄道に親しむ体験企画の実施。併せて公共交通利用の啓発を行った。</p> <p>○ 転入者等に対する公共交通利用案内マップの配布</p> <p>○ 携帯時刻表の作成・配布による PR (H22～24 年度) (参照 方針 2-②、参照 方針 3-⑦)</p> <p>バスアクセスマップの制作や「おでかけガイド」、協議会ホームページを活用した情報発信を実施。</p>
	<p>事業費・実施効果</p>	<p>【事業費】 H23：11,604 千円、H24：1,132 千円</p> <p>【実施効果】 H23：10 千人、H24：6 千人 (効果測定可能なもの)</p>

事業		② 粟生線キャラクター等による活性化のPR
事業内容		粟生線が地域にとって身近な存在で、持続して親しまれていくよう、粟生線のキャラクターやロゴマーク、ラッピング電車等により、活性化をPRする。
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 粟生線キャラクターを活用したPR</p> <p>➤ 利用啓発ポスター、駅看板の制作・掲出（H22年度）  小野高校生と小野東小学校生の協力により提案されたキャラクター「しんちゃん」「てつくん」を、粟生線活性化のシンボルとして各種PRポスター等に活用。  また、新開地駅・高速神戸駅にキャラクターと沿線名所をデザインした旅客誘致看板を掲出。  ⇒ キャラクターの認知度アップにより活性化活動への共感度向上に寄与。  今後も利用啓発の効果的なPRに活用。</p>  <p>➤ キャラクター列車装飾・運行（H22年度）  6000系車両側面にキャラクターデザインのステッカー貼付、先頭車両へのヘッドマーク掲出を行い、営業列車およびイベント列車として運用。（方針2-③を含む）。  ⇒ キャラクターの認知度アップにより活性化活動への共感度向上に寄与。  引き続きイベント列車等にも活用を図る。</p>  <p>○ シンボルマークを活用したPRグッズ等の製作  沿線イベント等での利用啓発活動や、協議会だより等の利用啓発チラシ配布時の訴求効果を高めるため、キャラクターデザイン入りのティッシュやメモ帳等を作成・配布。  ⇒ キャラクター活用によりPR訴求効果の向上に寄与。  今後も適宜制作、活用を図る。</p>  <p>○ 沿線の魅力を発信するラッピング列車の運行（参照 方針3-⑥）  ○ 沿線の特色を活かしたイベント列車の運行（参照 方針3-⑥）</p>
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 H22：1,597千円、H23：2,620千円、H24：707千円</p> <p>【実施効果】 定量的な効果測定は困難であるが利用啓発活動の効果向上に寄与。</p>

施策		③ 沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動
事業内容		行政等の職員が率先して、粟生線等の公共交通機関を利用するリーダーとなってアクションを起こす。
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 県・市職員等による通勤・出張時等の公共交通率先利用の推進  職員の通勤・出張や休日での粟生線利用を促すため、庁内への啓発Eメールや文書配信のほか啓発アンケート等を実施。三木市では、職員出張時の交通費として粟生線の回数券支給を実施。  ⇒ 市民の利用促進を図るため、行政としての姿勢を示す取り組みとして実施。  今後も利用機会の拡大に努める。</p>
	事業費・実施効果	<p>【事業費】 —</p> <p>【実施効果】 H23：5千人、H24：4千人  （効果測定可能なもの）</p>

方針5 安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

計画の目標：安全で安定した鉄道輸送サービスの確保

事業		① 国庫補助制度も活用した鉄道施設の効果的な更新
事業内容		国庫補助制度も活用しながら、鉄道施設の効果的な更新を図る。
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 施設の更新・改良による安全性の向上（H22～H24年度）</p> <p>補助制度（鉄道軌道安全輸送設備等整備事業費補助）を最大限活用し、ATS（自動列車停止装置）改良、車両制御装置改良、コンクリート枕木化、レール交換、ホーム改良（志染駅）、橋梁補強・塗装、警報機のLED化等の安全対策工事を実施。</p> <p>⇒ 安定的な安全運行のための基盤整備に寄与。今後も継続実施。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
	事業費・実施効果	本協議会事業とは別に実施。

事業		② 利用者動向・ニーズに応じた輸送サービスへの改善
事業内容		的確に利用者ニーズを把握し、これに応じた輸送サービスへの改善を図るとともに、利用者に事業を評価してもらいしくみづくりを行うことでPDCAサイクルに従った事業展開を図る。
事業評価	具体施策の内容・評価	<p>○ 利用者ニーズを把握するための各種アンケートの実施（H22～H24年度）</p> <p>トレインフェスティバルやシンポジウム等の各種イベント参加者や、シニアパス、平日昼間・土休日お得きっぷ等の企画乗車券購入者へのアンケート調査のほか、モビリティ・マネジメントの一環として沿線住民・企業・学校等へのアンケート調査（参照 方針4-①）を実施し、活性化事業への反映を図った。</p> <p>また、三木市自由が丘地区では、地域住民独自の活動として住民アンケートを実施。</p> <p>⇒ 施策のPDCAへの反映を図り、アンケート結果を基に、シニアパスの通用期間の延長や、平日昼間・土休日お得きっぷの新規発売などの施策に反映した。今後も継続実施。</p>
	事業費・実施効果	モビリティ・マネジメント関係については、方針4-①に合わせて記載。

計画の目標：沿線住民と一体となった協力体制の構築

事業	① 沿線地域との協力体制の構築
事業内容	沿線地域住民の意見や要望等の把握に努め、粟生線の活性化や利用促進の協力体制を構築する。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事業評価</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">具体施策の内容・評価</p>	<p>○ 地域住民による駅の美化活動やPR等、鉄道愛護意識の醸成</p> <p>○ 神戸電鉄と地域の交流を促進する社会貢献活動の実施</p> <p>➢ 沿線高校生による各種支援・応援活動の実施 (H22～H24 年度)</p> <p>沿線高校生による、ドキュメント放送作品制作、応援メッセージ絵画制作・駅看板への掲出、利用啓発モザイク壁画・イルミネーション制作・展示、研究授業の実施など、さまざまな支援活動の実施。</p> <p>⇒ 高校生による主体的な活動の広がりによる地域住民の意識向上に寄与。今後も連携を強化。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>➢ ミュージアムトレインの運行 (H24 年度)</p> <p>サポーターズクラブ会員からの提案・協力を得て、6000系車両内の広告枠を活用し、粟生線全線開通 60周年を記念して、沿線の歴史を振り返る写真を展示するミュージアムトレインを運行。専用ヘッドマークや側面ステッカーで装飾し、クイズ企画とも連動して、利用促進と利用啓発を図る。</p> <p>⇒ 歴史写真展の後も、協議会情報やサポーターズクラブ会員や沿線高校生の写真・絵画作品などの展示スペースとして活用し、マイルール意識の向上を図る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>  <p>○ ご利用・ご乗車マナーの向上啓発 (H22～H24 年度) (参照 方針 1-④)</p> <p>○ 粟生線サポーターズクラブ発足・会員募集活動実施 (H24 年度)</p> <p>広く沿線内外から粟生線活性化に協力いただけるサポーターを公募し、組織的な利用啓発、利用促進行動拡大の母体となる体制構築を図る。会員数 5,000 人を目標に会員募集活動を展開するとともに、会員のリピート乗車のための企画や、会員の主体的な活性化活動・乗車行動に繋がる各種取り組みを実施中。</p> <p>⇒ 地域の主体的な活動母体として一定の規模にはなったものの (2 月末時点会員数 2,878 人)、目標には達せず、特に地域住民の入会が進んでいないため、さらなる協力呼びかけと、効果的な取り組みの展開を図る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

事業評価	<b>具体施策 の内容・評価</b>	<p>➤ <b>クラブ協力店舗・施設の開拓</b>（H24年度） （参照 方針6-③）</p> <p>➤ <b>粟生線サポーターズクラブの集い開催</b>（H24年度）          会員の主体的な活動の在り方を自らが考えるきっかけ作りとして、会員相互の意見交換と交流を目的としたミニ集会を開催。（参加65名）          ⇒ 粟生線活性化について会員が自由に意見を交わす機会として初めて実施し、参画意識の向上に寄与。今後も同種企画の継続実施を検討。</p>	
	<b>事業費・ 実施効果</b>	<p>【事業費】 H22：414千円、H23：627千円、H24：3,657千円</p> <p>【実施効果】 H24：6千人 （効果測定可能なもの）</p>	

事業	② 無人駅のボランティア等による有人化	
事業内容	無人駅におけるボランティア活動での案内や清掃等による有人化により、地域の財産となる駅にしていく。	
事業評価	<b>具体施策 の内容・評価</b>	<p>○ ボランティア駅長等による無人駅の活性化</p> <p>○ 駅の空きスペースを活かした活性化策の展開（参照 方針2-④）</p> <p>⇒ ボランティア等の協力確保に至らず、現状では実施環境整わず。地域協力の得られる施策について継続検討。</p>
	<b>事業費・ 実施効果</b>	<p>【事業費】 —</p> <p>【実施効果】 —</p>

事業	③ 企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップ（販売拠点）の設置	
事業内容	地域の協力により、企画きっぷの販売や情報発信を行うフレンドショップ（販売拠点）を設置する。	
事業評価	<p>具体施策の内容・評価</p>	<p>○ 企画乗車券利用者やサポーターズクラブ会員へのサービス提供  <b>協力店舗の開拓（H22～H24年度）</b>  粟生線活性化の一環として沿線地域の飲食店やサービス施設等へ協力を働きかけ。（方針1-①を含む）  【協力店舗数】 神鉄高速シニアパス（17箇所）、  神鉄おもてなしきっぷ（26箇所）  粟生線サポーターズクラブ（27箇所） H25.3月現在  ⇒ 施策の付加価値向上と地域参画の基盤形成に寄与。  更なる規模拡大を目指す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
	<p>事業費・実施効果</p>	<p>【事業費】 ー</p> <p>【実施効果】 定量的な効果測定は困難であるが利用啓発活動の効果向上に寄与。</p>